

Contents

書頭巻

(天良一田)

青年技術士交流実行委員会

# 活動年鑑

## VOL.2

第1B期(2006年6月～2007年5月)

2007年6月

(社)日本技術士会 青年技術士交流実行委員会



**1** 巻頭言

**3** 寄稿（永田一良氏）

**4** 寄稿（松浦勝博氏）

**5** ワーキンググループ活動報告

**17** 支部青年組織活動報告

**24** 月例会報告

**34** メンバー紹介

**47** 国際交流報告（日韓）

**51** 国際国流報告（CAFE0-24/YEAFE0-13）

**57** 添付資料

活動紹介ポスター，委員会紹介リーフレット，3月例会ポスター，国際交流紹介ポスター

---



## 巻 頭 言

青年技術士交流実行委員会が設立され、2年間が経過しました。所掌事項に基づき各種の活動を行って参りました。

各部会や関係委員会及び支部の皆様と今後、連携して会員サービスを提供していきますので、当委員会を宜しくお願い致します。



### 【活動対象＜当委員会活動の4本柱（所掌事項）】

- ・ 本会（政策委員会）についての企画、立案に対する若手技術士層としての積極的な参画、協力
- ・ 若手技術士向けを中心とした研鑽事業の企画・実施
- ・ 各支部における若手技術士グループとの交流による研鑽活動の活性化
- ・ 若手技術士としての国際交流の実施

### 【活動方針】

技術士会員の青壮年層を対象としたサービスを下記のモットーに基づき提供致します。

国内外に開かれた～Universal Open、青年技術者のための～For Young Engineer、有益なサービス活動～Practical Service

### 【H18年度の活動と今後の活動について】

足腰の例会活動に加え、当委員会ならではの特徴（①部門横断的な活動、②青年・壮年・20才代の若手技術者のニーズを把握した活動、③各支部の特徴）を活かした会員サービスの提供を主な活動にしています。

#### （1）本会（政策委員会）についての企画、立案に対する若手技術士層としての積極的な参画、協力

平成18年度は、政策委員会と新しいロゴマークを制定しました。6月の技術士会総会で打ち出しました。

制定には、WGを立ち上げ「デザイン公募、選定、商標登録、運用・活用等」を行ってきました。

他には各支部委員会も加え、「壮年・青年・若年層の技術士会への提言」を取り纏め政策委員会に提言し、関連事業報告書に反映しました。

本年もこのような活動を政策委員会・支部と協議して継続的に行っていきます。

#### （2）若手技術士向けを中心とした研鑽事業の企画・実施

本部・各支部とも毎月の例会・見学会・研修会を行っています。特別例会として特別研修・シンポジウムを開催しています。

本部地区及び各支部では、第1次試験合格者歓迎会を行いました。本部では、習修技術者（準会員）による習修技術者向け研修（春先）と合宿形式のテーマ研修（11月）や国際交流の発表報告会等も行いました。

今年は、以前（旧青年技術士懇談会時代に）開催した江崎玲於奈博士等の著名人を招待した「特別シンポジウム」を必要に応じ部会共催等を検討し年初に開催する予定です。



### (3) 各支部における若手技術士グループとの交流による研鑽活動の活性化

年2回(6月と秋口)、運営ノウハウ共有化と結束力強化のため各地区活動報告会・支部交流研修会を実施しています。また、全国大会青年分科会の開催にも本支部連携で取り組んでいます。今後はネットを活用した継続的な支部交流も行っていきます。

### (4) 若手技術士としての国際交流の実施

アセアン、豪州、日韓等の技術士会・若手技術者団体と交流を行っています。昨年はアセアン(カンボジア)に若手会員を派遣し国際交流を行いました。今年はフィリピン(セブ島)に公募した複数名を派遣します。

日韓とは日韓交流委員会と沖縄で日韓会議を開催し大好評でした。今年はソウルで青年分科会シンポジウムとサッカー大会を開催(10月)します。

豪州とは、昨年代表団が日本技術士会を訪問(7月)しました。今年は、6月に豪州技術士会青年部と国際シンポジウム開催等を検討すべく複数名派遣し国際交流を進めていきます。

更に香港技術士会が8月又は10月に日本訪問を企画しており交流を深める予定です。参加者は本部だけでなく支部及び青年層以外の会員も含め参画を促し、アジア・太平洋地域との国際交流を強化していきます。

### (5) 内務の活動(会員増加活動、広報、記録、会計、規約等の諸規則整備)

会員増加活動に関する委員会に兼務委員を出し青年層の意見を反映しました。会務の外への発信、内部向けのタイムリーな情報提供に加え、年鑑や例会記録の作成等に着実に取り組みました。

会計の透明化と適宜の報告並びに本規約・担当委員制度・査問ルール等も合わせて整備しました。



## 青年委員会への期待

日本技術士会 副会長兼政策委員長

日本工学教育協会認定 特別教育士 永田一良

(CPD認定会員, 電気電子/総合技術監理部門)

早いもので 青年技術士交流実行委員会(通称青年委員会)が発足して2年が経過しました。この間 実行委員会としての業務体制や業務内容の構築に、執行部のみならず多くの方々が尽力してこられたことに敬意を表する次第です。

先だっては、日本技術士会の新しいシンボルマークの立案を青年委員会に依頼しました。青年委員会からの原案をベースに、この程 プロフェッショナル・エンジニアに相応しいマークが完成し、月刊技術士6月号に掲載されました。このマークがこれからの技術士会の道しるべであるようにと願うものです。

今や 技術士会会員の40%が青壮年層になってきました。青壮年技術士の皆さんは、組織に所属している人も独立して事業をしている人も 日夜己の業務に追われているのが実情かと思えます。モットモット青壮年層が活躍出来る場の創生が重要なテーマであると認識しております。曜日や時間帯の設定、研鑽テーマの設定、研鑽の方法などはすぐに検討できるテーマです。所属組織や勤務地域に近接した場所での研鑽は、地域社会や行政のニーズに対応することをテーマにすることで、本人のキャリア形成に役立つことは勿論、社会に貢献することにもなり、ひいては新たな会員獲得に繋がることになるでしょう。

JABEE 課程の修了者が 50,000 人を超え、1次試験の合格者と合わせた修習技術者は一大技術者集団になってきました。この技術者を「優れた技術者」に高めることは、技術創造立国を標榜する我が国の将来にとって必須のテーマです。残念ながらこういう体制にはなっていないのが現状ですが、学協会や産業界などと広く連携してシステムを構築する必要があり、修習技術者本人の立場、学協会や所属組織などの立場を勘案しての 若い視点での提案とその後の推進役を期待します。

技術士会に入って何かいいことがあるのかとはよく言われるセリフです。「魅力ある技術士会」でありたいものです。「活動の目玉=魅力」の構図の形成・実行です。私自信は「技術倫理」と「実践的専門応用能力」の研鑽こそがこれに当たると考えています。学協会や組織と連携しながらも、技術士会であればこそ可能なカリキュラムとシステムの構築です。これには 対象とする年齢層、基盤となる業務内容、生活する地域などの視点で検討することが成功への道かと考えています。

グローバルな社会、ユビキタスな世界、日々変化する環境下にあって、「変えてはいけないこと」と「変えなくてはならないこと」を明確に区分し、時代の要求に応じてスピーディに実行に移すことが大切です。青年委員会が政策委員会と緊密に連携して、技術士会の発展のため、ひいては社会のためまた本人のために 牽引車として機能することを期待するとともに、青年委員会のこれからの活躍・発展を祈念しております。



## 第2回特別公開シンポジウムの振り返って

前青年技術士懇談会 副委員長 松浦 勝博

青年技術士交流実行委員会の会員のみなさまこんにちは、2003年～2005年の3年間、当時の青年技術士懇談会の委員を務めていました松浦です。当時の委員長である時合氏、副委員長である野村氏、小松氏には大変お世話になりました。時が経つのは早いもので、今年は青年技術士を卒業する45歳となりました。

さて、3年間の委員として一番の思い出は、2003、4年の2回にわたって行われた特別公開シンポジウムでしょうか。青年技術士懇談会の特別公開シンポジウムは、技術士会の各種行事の中でも指折りの事業であり、著名人をメインゲストに迎え200人近くの参加者を集める一大イベントでした。私は2004年に開催された「第2回特別公開シンポジウム」の実行委員長としてシンポジウムの企画・運営に携わりました。

企画を立案するにあたって、一番はじめに頭を悩ましたのはメインゲストを誰にするか?でした。なんといっても1年前に開催された第1回目のシンポジウムのメインゲストは、ノーベル賞受賞者である江崎玲於奈先生でしたから、これに匹敵する著名人をゲストにしなければなりません。実行委員会では「国産技術の見直しを行い、今後日本から世界に発信する技術を育て、日本経済を発展させるためには、私たち技術者は何を考え、何にチャレンジしていく必要があるかについて考える」をシンポジウムのテーマとして企画していました。たまたま、当時情報工学部会長であった安田氏が、国産OS(コンピュータのOperating System): TRONの開発者であり、ユビキタスコンピューティングの先駆者である坂村健東京大学教授とお知り合いであるということで、安田氏を通じてメインゲストをお願いしました。坂村先生は講演、取材、研究活動で、国内ばかりでなく世界をまたに掛けて飛び回っているため、お願いできる日取りがなかなか決まらなかったのですが、何とか都合を調整していただき、2004年5月15日に決まりました。これ以降実行委員会内では1年前のE-Pro(江崎先生のE)に続き、S-Pro(坂村先生のS)の暗号名で企画を進行しました。

シンポジウム当日は約200人の参加者を集め、坂村先生の歯に衣着せぬお話と、若手技術士を交えたパネルディスカッションで大いに盛り上がりました。

シンポジウムの成功を支えたのは若手技術士の熱意であり、シンポジウムの企画・運営を通じて若手技術士の一体感が強

まりました。現在では諸事情により特別公開シンポジウムは開催されていないとのことですが、機会があれば是非企画をしていただき、若手技術士のパワーを見せてください。

—以上—





青年技術士交流実行委員会 ワーキンググループ

ワーキンググループ名		頁
政策対応兼シンクタンク活動		6
広報		7
月例会支援		8
国際交流	全体	9
	CAFE0/YEAFE0	10
	日韓技術士会議	11
	オーストラリア	12
支部交流		13
修習技術者		14
ロゴ変更		15
創立 50 周年記念誌		16



ワーキンググループ活動報告

WG名	政策対応兼シンクタンク活動																																																																																									
グループメンバー (○:グループリーダー)	○時合健生、小松秀次、平野輝美、久保康弘、椿谷敏雄(北海道)、藤川洋一(東北)、堀田亨(北陸)、濱田常雄(中部)、大氏正嗣(関西)、松木宏彰(中四国)、田辺努(九州)																																																																																									
グループの目的・活動の趣旨	<p>本会(政策委員会)についての企画、立案に対する若手技術士層としての積極的な参画、協力を行う。</p> <p><b>1. 背景</b> 理事会・政策委員会の活動の流れは、3月理事会で各種の案件を検討し、5月理事会で課題を次期の理事会(今年は役員改選期)に引き継ぐべく活動を行っている。</p> <p><b>2. シンクタンク活動で提言する狙い</b> 検討する目的は、青年層が関係する「今後の技術士会活動の具体的な検討結果」について政策委員会を通じ、次期政策委員会及び理事会に申し送りし実現を図ることを狙いとした。</p> <p><b>3. 効果</b> 本活動から得られる提言は、会員諸氏の会業務への参画機会の創出・自己研鑽の場の拡大及び会員増加等、日本技術士会の活性化に寄与するものである。また、当委員会においては、本部と支部との課題の共有化とそれを具体化する活動の創出により、当委員会の活動フィールドの拡大・役割期待に資するものである。</p>																																																																																									
今期の活動内容	<p>下記の検討テーマ2件とフリーテーマ1件について、本部と支部で検討した。</p> <p>(1)テーマ1:「青年層の会員(*1)が魅力を感じる技術士会活動とは?」。</p> <p>(2)テーマ2:「企業内会員(*2)が休日を含め平日でも容易に参加が可能な活動とは?」。</p> <p>*1:青年技術士・技術士補・修習技術者・JABEE認定者等 *2:一般事業会社に所属する会員</p> <p>●H19.1月委員会で政策対応グループから独立し、支部委員も含めた「シンクタンク活動グループ」を立ち上げた。</p> <p>●H19.2.7に支部委員に上記テーマの検討を依頼した。</p> <p>●H19.3.10に本部で取り纏めを行った。</p> <p>●H19.3.19に政策委員会幹事会で骨子を説明した。</p> <p>●H19.3.22の政策委員会本委員会で諮問された。</p> <p>●H19.4.9に政策委員会事業報告書用の文章及び資料を送付し受理された。</p>																																																																																									
	<p style="text-align: center;"><b>検討実績表</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No</th> <th rowspan="2">支部</th> <th colspan="3">実施記録</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>期日</th> <th>討論形式</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>2.21-3.8</td> <td>メーリング</td> <td>-</td> <td>21</td> <td>北海道メーリング(EPO)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>東北</td> <td>2.14</td> <td>会議</td> <td>支部会議室</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3</td> <td>関東(本部)</td> <td>3.3</td> <td>個別ヒアリング</td> <td>本部会議室</td> <td>10</td> <td>3月例会開催時</td> </tr> <tr> <td>関東(本部)</td> <td>3.1</td> <td>会議</td> <td>-</td> <td>10</td> <td>執行部検討</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">4</td> <td>北陸</td> <td>2.24</td> <td>メーリング</td> <td>福井県技術士会会議室</td> <td>10</td> <td>支部研修</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>2.10</td> <td>会議</td> <td>支部会議室</td> <td>10</td> <td>定例理事会</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5</td> <td>中部</td> <td>2.11-3.7</td> <td>メーリング</td> <td>-</td> <td>24</td> <td>中部青年メーリングリスト</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>3.1</td> <td>会議</td> <td>支部会議室</td> <td>3</td> <td>三役会</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>関西</td> <td>3.1</td> <td>メーリング</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>依頼</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中国・四国</td> <td>2.28</td> <td>会議</td> <td>支部会議室</td> <td>8</td> <td>役員+支部による研修</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">7</td> <td>中国・四国</td> <td>2.12-3.7</td> <td>メーリング</td> <td>-</td> <td>45</td> <td>支部メーリングリストによる(回覧分のみ記載)</td> </tr> <tr> <td>沖縄</td> <td>2.17-3.7</td> <td>私儀メーリング</td> <td>-</td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	支部	実施記録			備考	期日	討論形式	場所	1	北海道	2.21-3.8	メーリング	-	21	北海道メーリング(EPO)	2	東北	2.14	会議	支部会議室	5		3	関東(本部)	3.3	個別ヒアリング	本部会議室	10	3月例会開催時	関東(本部)	3.1	会議	-	10	執行部検討	4	北陸	2.24	メーリング	福井県技術士会会議室	10	支部研修	中部	2.10	会議	支部会議室	10	定例理事会	5	中部	2.11-3.7	メーリング	-	24	中部青年メーリングリスト	中部	3.1	会議	支部会議室	3	三役会	6	関西	3.1	メーリング	-	3	依頼	7	中国・四国	2.28	会議	支部会議室	8	役員+支部による研修	7	中国・四国	2.12-3.7	メーリング	-	45	支部メーリングリストによる(回覧分のみ記載)	沖縄	2.17-3.7	私儀メーリング	-	2	
No	支部			実施記録				備考																																																																																		
		期日	討論形式	場所																																																																																						
1	北海道	2.21-3.8	メーリング	-	21	北海道メーリング(EPO)																																																																																				
2	東北	2.14	会議	支部会議室	5																																																																																					
3	関東(本部)	3.3	個別ヒアリング	本部会議室	10	3月例会開催時																																																																																				
	関東(本部)	3.1	会議	-	10	執行部検討																																																																																				
4	北陸	2.24	メーリング	福井県技術士会会議室	10	支部研修																																																																																				
	中部	2.10	会議	支部会議室	10	定例理事会																																																																																				
5	中部	2.11-3.7	メーリング	-	24	中部青年メーリングリスト																																																																																				
	中部	3.1	会議	支部会議室	3	三役会																																																																																				
6	関西	3.1	メーリング	-	3	依頼																																																																																				
7	中国・四国	2.28	会議	支部会議室	8	役員+支部による研修																																																																																				
7	中国・四国	2.12-3.7	メーリング	-	45	支部メーリングリストによる(回覧分のみ記載)																																																																																				
	沖縄	2.17-3.7	私儀メーリング	-	2																																																																																					
活動成果	<p>H18年度政策委員会事業報告書に提言が資料として採用され、次期理事会への申し送り事項となった。<b>提言骨子—最終報告書への文章での表現(参照文章)</b></p> <p>(1)青年技術士交流実行委員会は、政策委員会と協議し<b>青年層に限定せず若手技術者層の意見(約6,400人/約43%)</b>を吸い上げ本会に対し、政策提言を定期的に行う活動を強化すべきであると併に、今後、その実行具体策についても具体的に検討を行う。</p> <p>(2)日本技術士会は、<b>青年層会員と準会員の青年層(20台後半~50才位迄:約6,400人/約43%)</b>を対象とした木目細かいサービスを検討し、提供する体制を強化すべきである。</p> <p>(3)日本技術士会は、青年層に限らず、<b>約90%の企業内会員層</b>を切り口とした会員サービスを従来以上に掘り起こし、提供する体制を充実すべきである。</p> <p>(4)青年層に限らず国際交流に関心がある会員は多いが、日本技術士会には、制度面での国際的な検討組織はあるものの、交流を主体としたサービスを提供し具体化できる組織・体制がない。従って、国際交流活動を戦略的に構築し会員サービスが提供できるようにするべきである。</p> <p>(5)日本技術士会は、企業内会員の企業にとって、独立系技術士にとっても準会員資格・会員資格を保有しているメリット、法律的な裏付けを強化するロビー活動や政治活動を行うべきである。</p> <p>(6)日本技術士会は、会員に対し他の学協会、学術団体との違いや特徴、会員メリット、今後のビジョンや方向性について十分に会員に伝えきれていない。従って、<b>特に初年度合格者や5年目未満の会員・準会員</b>に対し、日本技術士会のメリットや存在意義をきちんと伝えるべきである。</p> <p>(7)特に<b>支部会員や5年未満の会員</b>に対し、CPDサービスが希薄であるため、CPDの見直しと充実を図る。</p> <p>(8)日本技術士会は、<b>修習技術者、JABEE認定技術者</b>に対し、会員増加活動も視野に入れた受験業務を行うべきである。</p> <p>(9)日本技術士会は、技術や社会に対し外部に向け緊急提言を行うべきである。</p> <p>(10)日本技術士会の広報誌や広報活動をもっと開かれ魅力のあるものにすべきである。</p>																																																																																									
今後の活動・展開	政策委員会及び支部と協議してテーマを設定し、継続的に活動していく。																																																																																									



ワーキンググループ活動報告

WG名	広報
グループメンバー (○:グループリーダー)	○小松秀次、久保康弘、黒澤之、田村裕美、石関 学、井口慎也、鈴木史人
グループの目的・ 活動の趣旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青年委員会の紹介、活動報告、行事案内を目的としたHPの整備</li> <li>2. 青年委員会の活動報告を目的とした活動年鑑及び中間報告会資料の作成</li> <li>3. 青年委員会・委員補佐を対象としたメーリングリストの整備</li> <li>4. 技術士会同報メールへ行事案内の配信</li> <li>5. 委員会資料の保存・活用を目的としたデータベース管理</li> <li>6. 委員会内部のコミュニケーションの促進を目的とした委員会ブログの運営</li> </ol>
今期の活動内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青年委員会HPの整備・運営               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)HPの適宜更新</li> <li>(2)青年委員会の活動を分かりやすく魅力的に広報するため、HPの内容をリニューアルする。</li> <li>(3)海外向け英語版の充実</li> </ol> </li> <li>2. 活動報告書の作成               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)中間報告会(12月)資料の作成</li> <li>(2)活動年鑑(6月)の作成</li> </ol> </li> <li>3. メーリングリストの整備               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)メーリングリストの適宜更新</li> <li>(2)カレンダー、ブリーフケース等の共有機能の活用拡大</li> </ol> </li> <li>4. 技術士会同報メールに行事案内を配信               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)例会支援WGと調整の上、例会等の行事予定を配信</li> <li>(2)同報メール配信副担当者の登録(パスワードの取得)</li> </ol> </li> <li>5. データベースの電子化</li> <li>6. 青年委員会ブログの企画提案</li> </ol>
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. HPの整備・運営               <ol style="list-style-type: none"> <li>①新年度に伴い、内容を一斉更新した。</li> <li>②写真を多く取り入れた活動報告を作成・掲載した。</li> <li>③例会申込者(HP経由)の取りまとめを行った。</li> <li>④タイムリーな情報を提供するため外部発信用ブログを立ち上げた。</li> </ol> </li> <li>2. 活動年鑑やHPの更新編集作業において広報WG情報共有サイトを活用し進捗状況を共有出来るようにした。</li> <li>3. ヤフーグループを活用しメーリングリストを適宜更新した。年鑑データの閲覧ツールとしてMLのブリーフケースを活用した。</li> <li>4. 技術士会同報メールの活用               <ol style="list-style-type: none"> <li>①行事予定を適宜配信した。</li> <li>②副担当者に黒澤さんを登録した。</li> </ol> </li> <li>5. 委員会内部用ブログの承認を得た。6月からプレ運営を開始、次年度7月からシフト制に移行予定。</li> </ol>
今後の活動・展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. HP新コンテンツの作成</li> <li>2. HP英語版の更新</li> <li>3. ML共有機能の活用</li> <li>4. 委員会資料及び行事写真の集約管理(データベース化)</li> <li>5. 委員会ブログの活用推進</li> <li>6. 広報媒体の拡大(新聞雑誌他)</li> <li>7. 広報WG業務の役割分担の明確化と平準化</li> </ol>
その他	<p>各行事の新規参加者を増やすことが、委員会活動の活性化に繋がると考える。まずは青年委員会活動を一般に広く且つ分かりやすく伝えることが重要だ。また、継続性を担保するため次世代を含めた複数の担当者の割り当ても提案したい。</p>



ワーキンググループ活動報告

WG名	月例会支援
グループメンバー (○:グループリーダー)	○ 青木 (ゆ)、掛川、鈴木
グループの目的・活動の趣旨	<p>所属する部門に係わらず、技術士&amp;修習技術者間での技術交流、意見交換、親睦の場を活性化させること。</p> <p>具体的には有意義な企画立案、効果的な広報活動の支援を行い、参加者の増加および技術士の知名度向上に努める。</p>
今期の活動内容	<p>次の役割を果たすことを想定しています。</p> <p>① 例会担当決定・スケジュール管理 年間スケジュールに基づき担当幹事、副幹事を募集決定する。</p> <p>② 運営サポート 初心者幹事に対しては、会場予約、会計、講師謝礼等の方法を説明する。</p> <p>③ 例会広報サポート 広報グループと連携して、月例会企画の広報を行う。また、月例会後に活動報告書を作成してもらい、広報を行う。</p>
活動成果	<p>① 例会担当決定・スケジュール管理 2007年8月までの例会担当を決定。運営委員会の席で進捗状況を確認する運営が定着。</p> <p>② 運営サポート 例会申し込み用MLを立ち上げ、試行運用中。今のところ、順調に運用。</p> <p>③ 例会広報サポート 広報グループの支援を得て、技術士会及び青年委員会ホームページ、月刊技術士行事予定欄、同報メール等の方法で月例会企画の広報を実施。</p>
今後の活動・展開	<p>例会申込用MLを使った運用が軌道に乗り始めたので、マニュアルの改訂等を通して、月例会の円滑な運営に寄与したい。</p>
その他	



ワーキンググループ活動報告

WG名	国際交流
グループメンバー (○:グループリーダー)	○ 青木 卓也、井上 謙、倉井 真里、斎藤 稔、山田 英樹、園家 研一郎 (総括 野村)
グループの目的・ 活動の趣旨	① 2003年から継続している APEC を中心とした海外若手技術者と交流を促進し、 会員に対して海外交流・研鑽の機会を提供するとともに、派遣に至るまでのサポートを行う。 ② 新たな海外交流チャンネルの調査と交流促進を行う。 ③ 日韓技術士会議の青年交流事業、分科会を所掌する。
今期の活動内容	① 2003年から参加しているCAFEOだが、昨年からは青年技術士交流実行委員会として一般会員の派遣を考えてきた。今期は、より一般会員の参加を促すため、CAFEOおよび会議内で開催されるYEAFEOについて、その役割・目的を明確にし、以下のように派遣方針を定義した。 ・CAFEO派遣 →若手技術士向けを中心とした研鑽事業 ・YEAFEO派遣→若手海外技術者との交流チャンネルの模索・調査 この趣旨に沿い、YEAFEO (マレーシア) に委員補佐1名の派遣を行った。 また、2007年度フィリピンに向けて、公募と説明会を開催した。 ②豪日交流基金による交流相手先のひとつとして選定され、訪日時に国際特別委員会の協力を得て日豪の若手技術者による交流例会を開催した。またオーストラリア大使館でのレセプションに参加した。 オーストラリア青年技術者との交流はこれを拡充するべくSWG活動を行うこととした。 ③日韓技術士会議(沖縄)において、交流事業としてのサッカー大会、親睦会を沖縄県技術士会青年グループの協力を得て開催した。本会議では両国の青年技術士による分科会を開催した。また、日韓青年技術士交流の一環として、技術士全国大会(東京)に韓国青年技術士委員会委員長を招聘し、講演していただいた。
活動成果	①CAFEO/YEAFEO は経験者も蓄積されつつあり、今期は公募とそれに伴う説明会を開催でき、若手技術士向け研鑽事業としての位置付けを高めることができた。 ②オーストラリアに交流チャンネルを開拓することができた。交互訪問などの企画も熟成されつつあり、今後の発展の基礎を築くことができた。 ③日韓青年技術士交流は交互開催の1サイクルを完遂することができた。  その他、過去の YEAFEO 交流チャンネルによる交流や交流企画が進展しており、さまざまな活動と多方面への交流が実現しつつある。
今後の活動・展開	①CAFEO/YEAFEO は本委員会のコア交流事業として一層の展開を図ると共に、機会提供の原則から公募などの手順、広報に改善を進める。 ②オーストラリア青年技術者との交流は今期からの動きであり、委員個人レベルの交流から委員会としてあるいは技術士会としての交流にアップするべく説明性の向上を図る必要がある。 ③日韓技術士会議における青年技術士の位置づけは概ね定まったといえる。今後は継続性を確保するように努める。  上記のほか、さまざまな機会をとらえて、国際交流チャンネル開拓の模索を続ける。
その他	



ワーキンググループ活動報告

WG名	国際交流 (CAFE0/YEAFE0)
グループメンバー (○:グループリーダー)	【CAFE0/YEAFE0 担当】○前田 秀一・◎倉井 真里・長内 沙織・斎藤 稔・園家 研一郎・山田 英樹
グループの目的・活動の趣旨	毎年11月頃にASEAN加盟国で開催されるCAFE0/YEAFE0会議で技術発表をする参加者と若手技術者会議へ日本代表として出席する参加者の募集と派遣を行う。また、会議を通して知り合った各国の技術者とその後の交流を継続し、国内でも活発な活動をしていく。
今期の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2006年は11月29日から12月2日の日程で、マレーシア・クアラルンプールにてCAFE024/YEAFE02006が開催された。CAFE0派遣者2名、YEAFE0派遣者1名を決定したが、派遣者による必要な手続きの不備等により、最終的にはYEAFE0に1名を派遣した。YEAFE0では、青年委員会を代表して参加した長内がゲスト国としてのカンントリーレポートを発表し、日本技術士会及び青年委員会の組織紹介と活動報告を行った。帰国後、2007年1月例会で報告会を実施した。</li> <li>・2007年は11月27日から29日の日程で、フィリピン・セブ島にてCAFE025/YEAFE02007が開催される予定である。3月から委員会ML及び同報メールによる「CAFE0/YEAFE0会議参加者の募集」公募を実施、今年度新規に実施した募集説明会の参加者の中からYEAFE0派遣者1名を決定した。</li> </ul>
活動成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YEAFE0への参加を継続して実施することにより、ASEAN加盟国の若手技術者との交流をさらに深めることができた。</li> <li>・会議への参加が派遣者の研鑽となるとともに、帰国後の報告会の開催及び報告書の配布によって、国内の会員にも交流体験を共有することができた。</li> <li>・これまでの交流活動を通して築いた海外人脈から、ICE_HKA (Institution of Civil Engineers Hong Kong Association) の日本視察の件で共催提案があるなど、新たな交流活動に発展する兆しがあった。</li> </ul>
今後の活動・展開	日韓技術士会議や他国からの日本技術士会訪問など、交流活動の活発化に伴い、徐々に国際交流WGの活動範囲が拡大している。海外からのニーズや若手技術者の関心が非常に高い分野であり、青年委員会として特色ある活動でもあるため、他の活動グループや委員会内外ともよく調整して、会員から必要とされる活動を積極的に展開していく。
その他	




ワーキンググループ活動報告

WG名	国際交流（日韓技術士会議）
グループメンバー （○：グループリーダー）	○平野輝美，野村貢，小松秀次、久保康弘、黒澤 之、玉城重則，新井靖典，前田秀一，黒崎靖介，園家研一郎，山田英樹，椿谷敏雄，藤川洋一，堀田亨，濱田常雄，大氏正嗣，松木宏彰，田辺努
グループの目的・活動の趣旨	<p>若手技術士としての交際交流と研鑽を実現するために活動する。特に日本と韓国は近い国であり，歴史的の係わりが深い。日韓の二国間技術士会議は既に今年で36回目を迎える歴史ある会議である。両国の技術士会およびそれぞれの技術士諸氏においてお互いを知り懇親を深める場として有効且つ貴重な機会である。青年技術士交流実行委員会として国際会議の様子を知る絶好のチャンスである。</p> <p>今回は沖縄県開催であることから，沖縄県技術士会青年部との関係造り，青年委員会としての相互の連携構築も目的の一つとして活動する。</p>
今期の活動内容	<p>前回の終了後，毎月の日韓会議実行委員会に出席し，青年技術士交流実行委員会としての意見を述べ，議論に参加した（月例会出席）。また，今年の開催地である沖縄県那覇市に2回，ソウルに1回の訪問を行い，会議に出席した。</p> <p>各例会にて日韓技術士会議実行委員会と連携を持ち，以下の案件を進めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日韓技術士会議における第5分科会の開催と運営</li> <li>2. 会議開催にあわせて両国青年委員会同士のサッカー大会を開催し，計画と実施を行った。</li> </ol> <p>写真に第5分科会参加の皆様の写真を示す。また，親善サッカー大会の様子を示す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>第36回日韓技術士会議についての詳しい内容は別途提出した報告書を参照ください。</p>
活動成果	<p>第36回日韓技術士会議について，その準備段階から実施において皆様のご支援により滞り無く実施できたことは大きな成果と思う。本会議を開催するための準備等において，沖縄県技術士会青年委員会各位や県技術士の方々との連携をとりながら行ってきたが，その過程において各メンバーとのコミュニケーションを得，貴重な経験と人脈を形成することができ，大きな成果と考えている。</p>
今後の予定・展開	<p>第37回日韓技術士会議は，ソウル開催を予定しており韓国技術士会の主催となる。本年までに構築してきた人脈や相互の連携を深めつつ，日韓技術士会議実行委員会と連携を踏まえて積極的に関わっていくことが求められよう。</p> <p>現在，日韓技術士会議実行委員会と青年交流実行委員会を兼務しているのは平野のみであることを考えると，より密に連携を図っていくために兼務委員の増員と継続性を考えて青年委員会内部の日韓担当委員を複数体制にすることが求められよう。</p>
その他	<p>月次開催の日韓技術士会議実行委員会に平野委員（兼務）が参加し，青年委員会との情報共有に務めた。</p>



ワーキンググループ活動報告

WG名	国際交流（オーストラリア）
グループメンバー (○：グループリーダー)	掛川昌俊、前田秀一、倉井真里、山田英樹、園家研一郎、長内沙織、石関 学
グループの目的・ 活動の趣旨	(1) 日豪若手プロフェッショナルエンジニアのネットワークの構築 将来を担う日豪の若手プロフェッショナルエンジニアが、持続的かつ双方にとって生産的な協力関係を築いていく。  (2) 日豪ビジネスにおける利益の増進 日豪若手プロフェッショナルエンジニアのネットワークの活用を通じて、日豪ビジネスにおいて、利益を増進する。
今期の活動内容	日豪両国の若手プロフェッショナル間の交流を促進する目的で企画され、「日豪若手人材交流プログラム」で、2006年11月にオーストラリアより様々な分野のプロフェッショナル7名が来日した。これを記念して日豪フレンドシップミーティング、レセプションが開催された。  (1) 日豪フレンドシップミーティングの実施（2006年11月14日） 技術者の Brandon Lee 氏が日本技術士会に交流を申し込んできた。 (2) 「日豪若手人材交流プログラム」レセプションへの参加（2006年11月16日） 青年委員会からは掛川、園家、長内の3名が参加した。  
活動成果	(1) オーストラリアに交流チャンネルを開拓することができた。 (2) 交互訪問の企画他、今後の発展の基礎を築くことができた。
今後の活動・展開	(1) 技術士、日本技術士会の知名度向上 オーストラリア関係者に対して、技術士、日本技術士会、及び青年委員会のプレゼンテーションを行うことで、技術士、日本技術士会の知名度向上を図る。 (2) 日本青年技術士のオーストラリア訪問 実際のオーストラリアに出向いて豪若手プロフェッショナルエンジニアとフレンドシップミーティング他で交流活動を行う。また、シンポジウム、ワークショップ、個別プログラム等へ参加する。 (3) オーストラリア青年技術者との交流は今期からの動きであり、委員個人レベルの交流から委員会としてあるいは技術士会としての交流にアップしていく。
その他	



ワーキンググループ活動報告

WG名	支部交流
グループメンバー (○: グループリーダー)	○堀田 (北陸支部)、黒澤 (本部)
グループの目的・ 活動の趣旨	北海道、東北、北陸、中部、近畿、中四国、九州の各地区の若手技術者との合同例会・ 合同特別企画開催並びに情報交換をスムーズ且つ活発に実施することを目的とする。
今期の活動内容	1. 定期交流会議の開催 6月中旬に交流会議を開催する。  2. 全国大会での交流 北陸支部の企画で実施する平成19年度全国大会の分科会を通して、支部交流活動の 推進をはかる。  3. 他グループ主催の活動を通しての交流 国際交流や日韓技術士会議などの機会を通して交流をはかる。
活動成果	1. 平成18年度青年技術士交流実行委員会本支部連絡会議 6月25日(日) 10:30~12:00 出席: 本部、北海道支部、東北、北陸、中部、近畿、中四国、九州 ①年間活動の報告 ②全国大会分科会への協力依頼 ③日韓技術士会議への協力依頼 ④青年技術士交流実行委員会(1B)委員選出について ⑤本支部意見交換  2. 平成18年度全国大会に参加(H18. 9. 5. ~9. 6.) (1)本支部間のコミュニケーション 9月5日(火) 20:00~ 全国大会前夜祭二次会 9月6日(水) 7:30~ 本支部間連絡会議 出席: 青年技術士交流実行委員会(本部)、 支部青年技術士組織7支部(北海道、東北、北陸、中部、近畿、中四国、九州) (2)分科会(基調講演、パネルディスカッション) 9月5日(火) 9:30~ ①基調講演 「Break Through-私が超えたもの」異次元空間に移入して ・都市政策研究所所長(前港区長)原田敬美 ・「韓国における青年技術士の活動」青年委員長 朴 永換 ②パネルディスカッション テーマ「知と志の融合-現状のBreak Through」 パネリスト: 原田敬美、比屋根均、新井靖典 コーディネータ: 掛川昌俊 (3)ワーキングワーキング 分科会冊子の企画、実施計画 展示企画、本・支部ポスター展示
今後の予定	1. 定期交流会議 2. 平成19年度技術士全国大会(福井)
その他	



ワーキンググループ活動報告

WG名	修習技術者
グループメンバー (○:グループリーダー)	○新井靖典、青木ゆかり、委員補佐(A)、委員補佐(B)
グループの目的・活動の趣旨	修習技術者支援実行委員会との関係強化と共催、協力行事の企画運営を行うとともに、青年技術交流実行委員会独自の修習技術者対象のイベントを企画することを目的とする。
今期の活動内容	<p>1)『修習技術者研修セミナー』への協力 修習技術者支援実行委員会主催で平成18年11月に実施された『修習技術者研修セミナー』における講演者を選定し派遣した。また、グループ討議におけるコーディネータを青年委員会から派遣した。</p> <p>2)『平成18年度技術士第一次試験合格者・JABEE修了見込者ガイダンスプログラム』への協力 ガイダンスプログラムの企画の一つであるパネルディスカッションの企画運営を実施した。</p> <p>3)修習技術者のための例会の企画運営 当委員会の委員補佐による企画運営のもと、主に修習技術者を対象とした例会を平成19年3月に開催した。</p> <p>4)修習技術者支援実行委員会との関係強化 月に一度開かれている修習技術者支援実行委員会への出席を通して、当該委員会との密なコミュニケーションをとり、11月の修習技術者研修セミナー、技術士第一次試験合格者歓迎会の企画運営に協力した。</p>
活動成果	<p>11月の修習技術者研修セミナーでの講演者を選定し派遣した。</p> <p>平成18年度技術士第一次試験合格者・JABEE修了見込者ガイダンスプログラムにおけるパネルディスカッションの企画運営を無事遂行することができた。青年委員会からは、コーディネータ及びパネリスト2名がパネルディスカッションに参加した。</p> <p>委員補佐の企画運営により、修習技術者のための例会を3月に行った。今回は、「臨時開設！コミュニケーション部門！！」～「聞く」から『聞き出す』、「話す」から『伝わる』～のテーマで技術者のコミュニケーションについてのセミナーを開催した。セミナー参加型の内容が参加者に好評であった。</p>
今後の活動・展開	<p>1)修習技術者を対象としたイベントの強化 これまで、修習技術者を対象とした例会は3月に実施される『修習技術者のための例会』しか存在しなかったが、これから更なる増加が見込まれる修習技術者を対象とした新たなイベントの企画運営を模索していく。</p> <p>2)支部における修習技術者の状況把握 昨年からの課題であるが、支部における修習技術者の状況を把握し、本部、支部間における修習技術者同士の交流、バックアップ体制等を構築する。</p> <p>3)修習技術者支援実行委員会との連携強化 これまでも、11月の修習技術者研修セミナー、技術士第一次試験合格者歓迎会等で協力してきたが、今後も修習技術者支援実行委員会へ青年委員会委員が出席することを通して、更なる連携を図り協力関係を強化していく。</p>
その他	特になし



ワーキンググループ活動報告

グループ名	ロゴ変更
グループメンバー (○:グループリーダー)	○中村 弘、久保康弘、堀田亨、倉井真理、今野明
グループの目的・ 活動の趣旨	<p>大きく変革しようとしている日本技術士会の姿を広く社会にアピールすることになり、シンボルマークを変更する運びとなった。</p> <p>その変更に関する一次選定作業を行うことを主な目的としている。</p>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年委員会と事務局により公募関連作業を実施した。</li> <li>・応募作品を整理して、青年委員会による一次選定を行い、その中から3品を選出した。</li> <li>・デザイン事務所の選定を行い事務局に紹介した。</li> <li>・現在、事務局とデザイン事務所とが直接打ち合わせを行って作業を進めて、シンボルマークのデザイン化、ロゴデザインの製作作業を行っています。</li> </ul> <p>ロゴWGはデザイン事務所より情報もらい、随時助言をしてより良い成果が得られるために努力をしています。</p>
今後の予定・展開	<p>6月の総会での発表・表彰式に向けて、引き続き良い成果が得られるように努力をしていく。</p>




ワーキンググループ活動報告

WG名	創立 50 周年記念誌
グループメンバー (○: グループリーダー)	○小松秀次、田村裕美、時合建生、野村貢、平野輝美、掛川昌俊
グループの目的・ 活動の趣旨	<p>青年技術士交流実行委員会の前身である青年技術士懇談会が発足したのは、1959年(昭和34年)7月である。</p> <p>技術士会内の青年商工会議所的な役割からスタートし、来年の2009年7月で発足後50年を迎える。</p> <p>時代の経過と共に技術士会内の位置付け並びに役割は変わったが、若手技術者の交流を通して互いに切磋琢磨する活動の原点は同じである。</p> <p>発足後半世紀を迎えるにあたり、諸先輩方の功績を記録として残し、後世へその志を受け継いで行きたい。</p> <p>また、会員増加活動の一環として現在の青年技術者層に当会の活動を積極的にPRする資料としたい。</p>
今期の活動内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作成スケジュールの立案</li> <li>2. 編集構成の立案</li> <li>3. 役割分担の確認</li> <li>4. 概算予算書の作成</li> <li>5. 青技懇の発足から現青年委員会に至る、歴史資料の調査</li> <li>6. 青技懇の発足から現青年委員会に至る、OBの調査</li> <li>7. 技術士会事務局との調整</li> </ol>
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 技術士会30周年記念誌から青技懇の発足経緯や年月日が判明した。</li> <li>2. 編集内容や作成予算等を盛り込んだ企画書案を作成した。</li> <li>3. 技術士会事務局と予算や編集方法、情報資料、取材先等について確認した。</li> <li>4. 取材を目的としたOBとの懇親会企画を立案した。</li> </ol>
今後の活動・展開	<p>原則7月からの新体制で編集方法を再検討する。業務の引き継ぎ内容は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2008年6月に成果品を配布する。</li> <li>2. 予算の大半は印刷製本であるため、製本部数を必要最小限とする。</li> <li>3. 電子データでの配布を併用し、コストの縮減を図る。</li> <li>4. 事務局への報告・連絡・相談を定期的に行う。</li> </ol>




支部青年組織活動報告


支部青年組織名称	北海道支部 青年技術士交流委員会 (旧北海道技術士センター 青年技術士協議会)
代表者名・部門	<p>氏 名 丹治 和博</p> <p>部 門 総合技術監理部門 建設部門</p> 
これまでの活動内容 (2006. 6. ～2007. 5.)	<p>○テクニカルスクール・第1講 (デザイン・テクニックの習得)、8/2～9/4</p> <p>○第1回ニッポン・テクノツーリズム (CRC 横浜データセンター)、9/5</p> <p>○第33回技術士全国大会 (第6分科会・青年技術士：知と志の融合)、9/6</p> <p>○テクニカルスクール・第2講 (滝川市における中心市街地の再生について考えよう)、9/11</p> <p>○北の技術を語り継ぐ・第1講 (変動する地球と文明のシステム)、9/15</p> <p>○北の技術を語り継ぐ・第2講 (好適酒米「吟風」の開発)、9/30</p> <p>○第2回ニッポン・テクノツーリズム (増毛ツアー)、9/30～10/1</p> <p>○テクニカルスクール・第3講 (起業と人財育成のポイント)、11/15</p> <p>○北の技術を語り継ぐ・第3講 (ストレスマネジメント講座)、12/8</p> <p>○危機管理研究会・講演 (危機管理における広報の役割と事例からの教訓)、2/9</p> <p>○危機管理研究会 (最終報告会)、4/27</p>
今期の活動成果	<p>①全国青年技術士との交流 第33回技術士全国大会に際し6名が参加するとともに、(旧称)北海道技術士センター青年技術士交流会を紹介するポスターを作製・展示、冊子での紹介を実施。</p> <p>②テクニカルスクールの開講 3回のテクニカルスクールを開講し、のべ45人が参加。</p> <p>③北の技術を語り継ぐ 3回の講演会を実施し、のべ約100人が参加。</p> <p>④ニッポン・テクノツーリズム 2回実施 (横浜、増毛)。増毛ツアーでは技術士に限らず地元関係団体も含めて実施。</p> <p>⑤危機管理研究会 講演会、最終報告会のほか、「技術士の視点で組織の危機管理を考える」を刊行。</p>
今後の課題	<p>上記の活動を概ね継続していくが、今後の活動の課題としては以下があげられる。</p> <p>○道内地方の青年技術士との交流 活動が北海道の中心都市札幌に集中しがちであり、道内各地方の(青年)技術士との交流を幅広く行っていくことが必要である。</p> <p>○一次試験合格者(修習技術士)への支援、交流活動 技術士内の活動に限定することなく、一次試験合格者(修習技術士)との交流活動、及び技術士受験支援やスキルアップ支援も活動の視野に入れることが課題である。</p> <p>○技術士の社会的地位の向上 社会的問題に対する提言や技術士資格の意義を社会に周知していくなど取り組みが必要</p>
その他、本部への意向等	<p>○青年技術士の全国的なつながりを実感できる体制と活動を今後も望みたい。具体的には、青年技術士同士での連携した活動や、機関誌(会報)、ニュースレターなどの発行があると良い。</p> <p>○地方や地域に密接した活動を望む。そのため、例えば、本部と関東支部の機能を分離し全国的視点と地域視点での事業を分割し、役割を明確に分けることが考えられる。</p>



支部青年組織活動報告


支部青年組織名称	東北支部青年技術士懇談会
代表者名・部門	<p>氏 名 佐々木 貢</p> <p>部 門 建設部門</p> 
これまでの活動内容 (2006. 6. ～2007. 5.)	<p>(1) 第1回研修会 ①日時：平成18年6月21日(水) ②場所：宮城県土地改良団体連合会 5F会議 ③活動内容：研修会 講師：東北大学大学院 新妻弘明教授 演題：地域のための地域のエネルギー：EIMY</p> <p>(2) 第2回研修会 ①日時：平成18年8月31日(木) ②場所：宮城県土地改良団体連合会 5F会議 ③活動内容：研修会 講師：国土交通省東北地方整備局企画部 遠藤真一環境調整官 演題：「イラン国における洪水対策計画について の話題」</p> <p>(3) 現地見学会 ①日時：平成18年10月22日 ②場所：秋田県中央道路 ③活動内容：現場見学会 建設部会と共催</p> <p>(4) 各県技術士会との連携 (5) 北海道支部との交流</p>
今期の活動成果	<p>○年2回の勉強会の実施 ○現地見学期の実施 ○各県技術士会との連携、交流 ○全国大会の参加</p>
今後の課題	<p>○他部門に渡る若手技術士の掘り起こしに向けた活動・東北各県技術士との交流を図る。 ○年度末における活動休止状態の反省 ○全国的な活動における積極的な参加</p>
その他、本部への意向等	<p>○他支部との交流及び連携について</p>



<p>青年組織名称</p>	<p>北陸支部 青年技術士委員会</p>
<p>代表者名・部門</p>	<p>氏名 堀田 亨                  部門 応用理学・総合技術監理</p> <p>● 昭和33年新潟県村上市生まれ、信州大学理学部地質学科卒業、新潟市の総合建設コンサルタント(株)キタックの北信越事業所(上越市)に勤務。専門は斜面災害地質。(社)日本地すべり学会新潟支部副幹事長。趣味ドラム演奏。</p> 
<p>これまでの活動内容 (2006. 6. ～ 2007. 5.)</p>	<p>【運営委員会】 会の運営方針の立案、行事の企画を目的とし、月1回程度行っている。委員+オブザーバーが、新潟市の支部事務局を会場として実施している。</p> <p>【現地見学会】 2006年7月22日(土) 参加者20名                  テーマ：暮らしと再生技術の現地見学会                  見学地：新発田城、片山食品(株)工場、(株)日本アクシーズ(リサイクル工場)                  ⇒ 食品問題、ゴミ処理問題に取り組む現状に強烈な印象が残った。食材の輸入の現状やゴミ分別を意識した製品製造など、我が国が抱える問題は多いと感じた。また、豊かな文化を将来に残すための文化財復元事業についても学習した。</p> <p>【講演会】 2006年12月16日(土) 参加者37名                  テーマ：「青年が語る近未来への夢」～時間・空間へ挑戦する技術～                  講演：「プレミアムなものづくりを目指して～自動車の安全技術の現状と展望～」富士重工業(株) 宮澤則之氏、「世界に誇る日本のロケット開発技術、地球外惑星大気圏における有人飛行の技術的考察 (株)ニッケイトラスト園家 研一郎氏(航空・宇宙部門)                  ⇒ 技術的に接する機会の少ない技術分野における、高度な技術的な内容の話であった。詳細な話やキーワードに接することができ、有意義な講演会であった。</p> <p>【支部内4県の交流会】 2006年6月17日(土)～18(日) 参加者19名                  金沢市で拡大運営委員会を行った。それまで、メールのやり取りが主体となっていた4県間の交流だったが、比較的集まりやすい金沢で会議を企画したことで、一気に交流意識が高まった。福井市での全国大会に向け、大きなステップになったと思われる。単なる会議・交流会だけでなく、金沢市、七尾市の町並み見学会も併せて行なった。</p> <p>【全国大会】 東京大会の青年技術士の分科会に参加し、パネル展示などを行った。他支部の動向はとても参考+刺激となった。福井大会にむけては青年の会議を5回行った。</p> <p>【日韓技術士会議】 青年技術士の分科会に有志が参加した。技術者が国際感覚を身に付ける意味で、最も身近で重要な会議である。</p>
<p>今期の活動成果</p>	<p>①全国大会に向け、支部内4県の交流が活発化した。                  金沢市、福井市での企画が効果的であった。事務局のある県でなく、福井県で大会を開催することの意義を最大限高める方針！良い事例とし、全国に発信したい。</p> <p>②講演会に青年技術士交流実行委員会のつながりを生かした。                  今後、支部間の情報共有により、講師依頼などの点で企画行事の選択範囲が広がると思われる。一般市民を対象とした科学技術の普及企画にも応用できる。                  ⇒ (仮称) テクノプロデュース構想</p>
<p>今後の課題</p>	<p>①全国大会に向け、さらに広範な青年技術者への呼びかけを行い、今後の支部内交流のステップとしたい。⇒ 6月24-25日 北陸青年交流会(大会プレイベント)【別紙】</p> <p>②組織の高齢化、マンネリ化の打開 ⇒ 6月1日 多世代青年交流会(飲み会)</p>
<p>本部への意向等</p>	<p>全国大会にむけ、青年技術士参加の呼びかけをお願いしたい。</p>




支部青年組織活動報告

支部青年組織名称	中部青年技術士会 (ちゅうぶ せいねん ぎじゅつしかい)
代表者名・部門	<p>氏 名 比 屋 根 均 (ヒヤゴン ヒトシ)</p> <p>役 職 会 長</p> <p>部 門 衛生工学部門・総合技術監理部門</p> <p>キーワード 技術士の地位向上と自立、技術者倫理、修習技術者支援</p> 
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設 立：1986年(昭和61年)1月18日</li> <li>・所在地：〒450-0002 名古屋市中村区名駅5-4-14 花車ビル北館6階 (社)日本技術士会中部支部 気付</li> <li>・会員数：150名(2007年4月 現在)</li> <li>・役 員：会長(1)、副会長(2)、理事長(1)、副理事長(1)、理事(16)</li> <li>・U R L：http://www.ylw.mmtr.or.jp/~gifu-cea/cycea/cycea_f.htm</li> </ul>
これまでの活動内容 (平成18.6～平成19.5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年6月10日(土)13:30～16:50 平成18年度総会 演題：NPOバイオものづくり中部の活動および技術移転成果について</li> <li>・平成18年7月8日(土)14:00～16:00 中部企業内技術士懇談会合同例会 演題：自動販売機オペレータ ～アペックスの環境保全活動について～</li> <li>・平成18年9月9日(土)13:30～17:00 東邦がス知多緑浜工場管理センター地下に建設中のLNGタンクの建設現場での見学会</li> <li>・平成18年10月25日(水)18:00～21:00 10月特例会 コーチングスキル勉強会</li> <li>・平成18年11月11日(土)13:30～16:30 日本原子力研究開発機構 瑞浪超深地層研究所 掘削現場見学</li> <li>・平成18年11月25日(土)14:00～17:00 技術者倫理例会 講義-1 「いなぜ技術者倫理か」 講義-2 「これからのプロフェッショナルエンジニアに求められるもの」</li> <li>・平成19年1月24日(水)19:00～21:00 1月特例会 ワイガヤ会議</li> <li>・平成19年2月10日(土)14:00～17:00 建設部会合同例会</li> <li>・平成19年4月7日(土)13:30～17:00 平成19年度総会</li> </ul>
今期の活動成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度活動方針を掲げ、定期的な活動を推進することができた。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自由闊達に、もっとたのしく</li> <li>2. 質の高い技術者を目指そう</li> <li>3. 科学技術、環境と社会に若い力で貢献しよう</li> </ol> </li> <li>・当初の目的である「若い技術士の交流の場」として、活発な活動とまではいえないまでも、定期的に講演会、見学会等を開催することができた。</li> <li>・11月には「第1回技術者倫理例会」(ETの会との共催)を開催、継続的に実施していく予定(平成19年度も継続実施予定)</li> <li>・ワーキンググループ(持続可能な交通を考えるWG(TMO))の活動も軌道に乗っており、外部機関からも声がかかるまでになってきた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営財源の確保 本部への担当者の派遣費用等、運営費が増加傾向にある。現在は過去の遺産によりどうにか賄えているが、このままでは2～3年以内に破綻の恐れがある。 課題：会運営の黒字化</li> </ul>
その他、本部への意向等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者の本部への派遣費用補助制度の見直し</li> <li>・活発な「技術士活動」を行うための制度充実</li> <li>・技術士としての業務独占資格の拡充</li> </ul>




支部青年組織活動報告

支部青年組織名称	近畿青年技術士懇談会
代表者名・部門	<p>氏 名 大氏 正嗣</p> <p>部 門 建設部門</p> 
これまでの活動内容 (2006. 6. ～2007. 5.)	<p>6月：月例会 耐震偽装を巡る諸問題</p> <p>8月：見学会 アサヒビール吹田工場</p> <p>9月：月例会 土壌・地下水の汚染を計る</p> <p>11月：大阪市立大学との合同セミナー： 1) 市町村の合併と連携を考える 2) 最近の自治体改革を考える</p> <p>12月 月例会 「政策連携」の都市 —“環境首都”の交通政策とエネルギー政策—</p> <p>1月 ミニ講演会 1) 戸建て住宅の基礎地盤調査 2) 人の嗅覚で判定する臭気の測定方法 3) 多数者評価におけるAHPについて 4) 外国鉄鋼企業のM&amp;Aとコスト構造 5) 神戸市改革について</p> <p>2月 月例会 オゾンを用いたグリーンファクトリー機器・システムの技術紹介</p> <p>3月 月例会 大型ドームの設計</p> <p>4月 総会+ミニ講演 (続) ここまで出来るインターネット</p> <p>5月 月例会 労災保険よもやま話</p>
今期の活動成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支部との連携を徐々に深めることが出来た</li> <li>・大阪市立大学との合同市民セミナーの第一回を開催した</li> </ul>
今後の課題	セミナー以外での、市民との接点を深める方法がまだ模索中である
その他、本部への意向等	




支部青年組織活動報告

支部青年組織名称	中・四国支部 青年技術士交流委員会																								
代表者名・部門	<p>氏 名 松 木 宏 彰</p> <p>部 門 総合技術監理・応用理学</p> 																								
これまでの活動内容 (2006. 6. ～2007. 5.)	<p>○1回/月(第2水曜日)の例会と勉強会の実施</p> <p>○修習セミナーへの協力および技術士1次試験・2次試験合格者祝賀会でのPR活動などの実施</p> <p>○例会以外の主な行事・会合は以下の通りです</p> <p>6月14日(水)第2回総会</p> <p>6月25日(日)青年技術士交流実行委員会本支部連絡会議(東京:2名参加)</p> <p>8月26日(土)中・四国支部青年技術士連絡会議(広島:15名参加)</p> <p>9月5・6日 技術士全国大会参加(東京:3名参加)</p> <p>2月17日(土)第1回現地見学会の実施 テーマ「錦帯橋の歴史と酒造りの技術を知ろう」 (山口県岩国市:28名参加)</p>																								
今期の活動成果	<p>若手技術者による勉強会の発表テーマを以下に示します。今年は建設・環境・電気電子・生物工学と多岐の分野にわたるテーマだったことが特徴的です。お互いの専門分野はそれぞれ異なりますが、他分野の方の発表は多くの面で勉強になったことと思います。</p> <table border="1" data-bbox="584 1211 1423 1503"> <thead> <tr> <th>開催月</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月</td> <td>耐震強度偽装問題その後</td> <td>森保氏</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>情報通信の仕組みについて</td> <td>鈴川氏</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>環境分野について一話題提供と含有量計算のワーク</td> <td>新沢氏</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>バイオ燃料について</td> <td>八百屋さん</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>技術図書執筆はCPD時間が40時間一本の執筆の紹介</td> <td>杉山氏</td> </tr> <tr> <td>4月</td> <td>PCのTIPS集</td> <td>鈴川氏</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>渋帯線内の社会実験の実践とその効果について</td> <td>森岡氏</td> </tr> </tbody> </table> <p>支部ホームページ内に青年技術士交流委員会のホームページを開設しました。 (支部ページのアドレス: <a href="http://www.ipej-chushi.jp/">http://www.ipej-chushi.jp/</a>)</p>	開催月	発表テーマ	発表者	7月	耐震強度偽装問題その後	森保氏	9月	情報通信の仕組みについて	鈴川氏	10月	環境分野について一話題提供と含有量計算のワーク	新沢氏	11月	バイオ燃料について	八百屋さん	1月	技術図書執筆はCPD時間が40時間一本の執筆の紹介	杉山氏	4月	PCのTIPS集	鈴川氏	5月	渋帯線内の社会実験の実践とその効果について	森岡氏
開催月	発表テーマ	発表者																							
7月	耐震強度偽装問題その後	森保氏																							
9月	情報通信の仕組みについて	鈴川氏																							
10月	環境分野について一話題提供と含有量計算のワーク	新沢氏																							
11月	バイオ燃料について	八百屋さん																							
1月	技術図書執筆はCPD時間が40時間一本の執筆の紹介	杉山氏																							
4月	PCのTIPS集	鈴川氏																							
5月	渋帯線内の社会実験の実践とその効果について	森岡氏																							
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動の定着化と、現地見学会の企画</li> <li>○ 支部内での地方会員へのサービスの向上</li> <li>○ 建築士会、他の分野の専門家との交流を図る</li> </ul>																								
その他、本部への意向等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他の支部との相互交流の活発化をはかりたい</li> <li>○ 地方会員へのサービスの向上をお願いしたい</li> </ul>																								



支部青年組織活動報告

支部青年組織名称	九州支部第7部会、青年技術士ネットワーク（両組織の協同活動）
代表者名・部門	<p>氏 名 田 辺 努</p> <p>部 門 機械、総合技術監理</p>  <p>※H19.6.1で青年技術士交流実行委員交代予定 →新任：山田 伸雄さん（建設部門）</p>
これまでの活動内容 (2006. 6. ～2007. 5.)	<p>平成18年度取組みテーマ「安全・安心な社会を築く技術」</p> <p>1 取組みの目的 耐震偽装や自社の設計・施工ミス隠蔽等の技術者のモラルに係る問題、相次ぐドアやシャッター等の挟まれ事故における安全設計及びメンテナンス技術の問題、子供をねらった犯罪等のセキュリティ問題等が多発している状況で、大きな社会問題と化している。背景として、技術者に対する倫理教育の不足、設計者の安全設計に対する認識不足、無理なコスト低減圧力、地域のつながりの薄弱化による犯罪抑止効果低下などがあると思われる。「安全・安心な社会」を築くには我々技術者はどんなことに留意すればよいのか、何ができるのか。</p> <p>2 取り組み内容 隔月の定例会及び年末の公開講演会にて、事故・災害の諸事例やそれに関わる技術等を、その技術に詳しい講師を招いて解説していただき、討論、研究しました。 ・福岡西方沖地震被害及び耐震技術、エレベータ事故、ガス機器事故、食の安全、台風等気象関係</p>
今期の活動成果	<p>社会的にも影響が大きかった重大事故の諸事例やそれに関わる技術の基礎知識を学ぶことで、安全技術及び技術者倫理の重要性を再認識し、参加メンバー各々が今後の自らの業務にそれらを他山の石として活かせるのではないかと考える。</p> <p>※なお、平成19年度は、テクノツーリズムも勘案し、年間テーマを「九州の技術遺産」としました。歴史的に価値のある九州の構造物や技術を研究し、1回は見学ツアーも開催する計画としています。</p>
今後の課題	<p>○参加者をいかに増やし、活動を活性化するか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規技術士合格者の勧誘</li> <li>・魅力的な活動内容の企画</li> <li>・修習技術者の参加</li> </ul>
その他、本部への意向等	<p>○企業内技術士や若い技術士において、技術士会との距離感があり、なかなか入会しない（入会する具体的メリットがみえない） 対策案：会費を無料化し、技術士全員から徴収できる他の手段（例えばCPDを義務化し、登録料をとる）で財源は確保し、先ず全員を技術士会に取り込み、情報をやりとりできるしくみをつくる。</p>



青年技術士交流実行委員会 月例会

例会名	日時／内容	頁
8月度例会	2006. 8. 6 ビアパーティ	25
9月度例会	2006. 9. 2 国際交流勉強／技術士と話そう	26
10月度例会	2006. 10. 20 情報管理センター見学会	27
1月度例会	2006. 1. 20 海外交流成果報告会	28
3月度例会	2007. 3. 3 修習技術者向け例会	30
4月度例会	2007. 4. 24 八景島シーパラダイス裏側見学ツアー	31
5月度例会	2007. 5. 18 アサヒビール茨城工場見学会	33



8月度月例会

会期員委員

- ・日 時：2006年8月6日（日）18：30～20：30
- ・場 所：Dining Terrace SOL（ダイニングテラスソル）
- ・参加者： 35名
- ・内 容：「ビアパーティ」

・紹介文

青年技術士交流実行委員会では、ほぼ毎月、講演会や見学会等の行事を開催しています。

8月の月例会は、青技懇時代からの恒例行事「ビアパーティ」です。

日時は二次試験受験生も集まりやすい試験2日目の夕刻にしてあり、毎回多くの若手技術士、修習技術者が参加しています。

この機会にぜひ青年委員会の行事に参加して親交を深めると共にテーブルごとの議論に加わって下さい。

きっと新鮮な出会いがあるはずです。

なお、本行事には年齢等の参加資格要件はありません。

・感想等

例年、8月例会はビアパーティとしているため、これを楽しみにしている参加者も多い会である。

今年度は、全国大会（東京）の開催間近ということもあり、分科会冊子の回覧や分科会行事の打合せなども同時に行った。



以上  
(野村 貢 記)



## 9 月度月例会

- ・日時：2006年9月2日（土）13：30～16：45
- ・場所：日本技術士会荻手ビル会議室
- ・内容：国際交流勉強会／技術士と話そう！

### 1. 第1回国際交流勉強会

若手技術者の国際交流について、ともに考えるための勉強会の第1回目を開催した。若手のみならず、経験豊富なベテラン技術士の参加も得、様々な意見が活発に交わされて有意義な勉強会となった。今後も、国際交流に関する様々なテーマを設けて、継続的に開催する予定。

### 2. 技術士と話そう！

技術士を目指す若手技術者（主に修習技術者）を対象に、テーマを限定せず、ざっくりばらんに技術士と語り合ってもらうための場として開催した。少人数のグループを複数編成し、1グループに数人の技術士を配し、参加者の疑問・質問に答える形をとった。

初めは若干緊張気味であった参加者たちもまもなく打ち解け、どのグループも熱心かつ和やかな交流が行われた。

このような機会を通して、技術士に対する親しみと、具体的なイメージを持ってもらい、技術士を目指す若手技術者が少しでも増えることを願う。

(青木ゆかり記)



国際交流勉強会の様子



技術士と話そう！の様子



## 10 月度月例会

- ・日 時：2006 年 10 月 20 日（金）15：00～17：00
- ・場 所：首都圏 某所？（未公開）
- ・参加者：幹事を含め 5 名
- ・内 容

### 【情報管理センター見学会】

～24 時間 365 日情報資産を安全に管理運用する～

現代社会は、ネットワークを通じて日々膨大な情報交換が行われている。

個人情報保護法等が施行され、情報資産は災害・犯罪等さまざまなリスクに対応しなければならなくなった。

さて、このような情報資産はどのように管理運営されているのか？

10 月例会では情報資産を管理運営する「情報管理センター」を見学した。

\*残念ながらこれ以上は、情報管理上の安全性を担保するため、公開できません・・・

感 想：一言で表現するならば「要塞のような施設」でした。



【見学会後の反省会】

右奥は施設を案内して頂いた、北海道から単身赴任中の N さん  
大変お世話になりました。

（小松秀次 記）



## 1 月度月例会

- ・ 日 時：2006 年 1 月 20 日（土）15：00～18：15
- ・ 場 所：株式会社 建設技術研究所 3F 会議室
- ・ 参加者： 23 名
- ・ 内 容：「青年技術士委員会の今年度海外交流成果 報告会」

### 1. 海外派遣の取り組みについて

- ・ 発表：野村 貢
- ・ 青年技術士懇談会からの海外交流実績について、2002 年度からの実績を紹介した。

### 2. 日韓会議参加報告

- ・ 発表者：平野輝美
- ・ 2003 年度の日韓会議に遡り、日韓青年の交流について経過の説明があった。
- ・ 今年度の日韓会議開催（沖縄開催：サッカー交流、全体会、分科会）について、経緯説明があった。
- ・ 今年度の日韓会議（ソウル）について説明があった。

### 3. YEAFEO 参加報告

- ・ 発表者：長内沙織
- ・ 今年度 YEAFEO（マレーシア）について、参加報告があった。
- ・ YEAFEO 会議について、セッション概要と発表経過の説明があった。

### 4. オーストラリア青年技術者との交流

- ・ 発表者：掛川昌俊
- ・ 豪日交流基金に基づく派遣者（Mr. Lee Brandon）と日本技術士会の交流事業について報告があった。
- ・ オーストラリア大使館でのレセプションとシンポジウムについて報告があった。

### 5. その他

- ・ 国際特別委員会 本間委員、出崎委員から青年委員会の海外交流について、期待するところ、目指すべき方向などについてコメントがあった。

### 6. 新年会

- ・ 月例会に引き続き、新年会が盛大に催された。

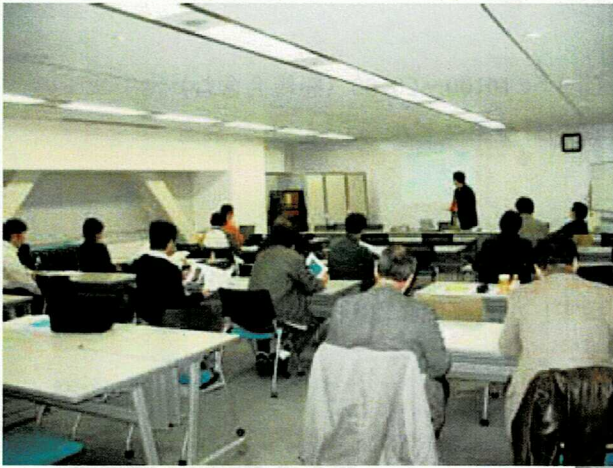
（野村 貢 記）



月例会報告

報告会の様子 (1月度月例会)

会務員委員



要項報告

2007年3月3日

期日 (1)  
場所 (2)  
参加者数 (3)  
テーマ (4)  
【出き関】 (5) >



間、【出き関】 (5) >

テーマ (4)

参加者数 (3)

場所 (2)

期日 (1)

【出き関】 (5) >

テーマ (4)

参加者数 (3)

場所 (2)

期日 (1)





### 3月度月例会

#### 1. 活動概要

- (1) 日時 2007年3月3日(土) 10:00~20:00 (懇親会含む)
- (2) 場所 (社) 日本技術士会 葺手第2ビル 5階A~D会議室
- (3) 参加者総数 27名
- (4) テーマ

臨時開設！コミュニケーション部門！！

<「聞く」から『聞き出す』、「話す」から『伝える』>

#### (5) 当日構成

- ① AM : 個人ワーキング・委員会紹介

コミュニケーションの基礎として、参加者同士で自己紹介し合い、相互の印象を率直に記載してもらい、という実践をした。12分間という枠では収まらないほど会話が白熱した。



- ② PM1 : 講演

プロコーチとして活躍されている上田雅美氏(アネゴ企画)から、コーチングの視点によるコミュニケーションについて講演を頂いた。自分が4つのタイプ(コントローラー、プロモーター、アナライザー、サポーター)のどれに当てはまるかを実践し、簡単なグループディスカッションを行った。

- ③ PM2 : グループディスカッション

AM、PM1の内容を踏まえ、「技術者としての」コミュニケーションのポイントは何かをグループに分かれてディスカッションした。物を介するコミュニケーションがあることを認識、伝える姿勢・熱意が必要、など斬新な議論結果も発表された。

#### 2. 振り返りと課題

午前のワーキングから夜の懇親会まで、一日中会話やコミュニケーションをするという超参加型ともいえた内容であったが、アンケート結果によると約9割の参加者から満足したという意見を頂けた。

運営サイドの反省としては、メンバー間の連絡方法が主としてメールだったこともあり、作業の分割化がなされにくく、作業ボリュームが偏ってしまったことが挙げられる。今後の課題としていきたい。

以上  
(石関学 記)



## 4月度月例会

- ・例会名 : ファミリー見学会 『水族館の裏側見学ツアー』
- ・日時 : 2007年4月14日(土) 13:00~16:30
- ・場所 : 横浜・八景島シーパラダイス アクアミュージアム  
HP <http://www.seaparadise.co.jp/>
- ・参加者 : 32名(大人24名 子供8名)
  
- ・内容 : 昨今、北海道の旭山動物園や沖縄美ら海水族館など、動物園・水族館が脚光を浴びている。今回の例会では『水族館の裏側見学ツアー』と題して、横浜・八景島シーパラダイス アクアミュージアムの普段は立ち入ることの出来ない施設の裏側見学会を開催した。

### <例会スケジュール>

- 13:00 集合 受付
- ~13:30 参加費及び入場料徴収後、ショー見学会場へ各自移動
- 13:30~14:10 海の動物たちのショー見学
- 14:10~15:15 通常見学(自由見学)
- 15:15~15:50 裏側見学  
(ろ過機、脱水機等の水族館施設、調餌室、飼育室等の動物関連施設)
- 15:50~16:30 質疑応答  
解散

### <見学内容>

動物たちのショーや水族館の観覧等の通常見学後、参加者を3班に分けて水族館スタッフ先導による、水族館の裏側見学を行った。裏側見学では、動物たちの餌を調整する調餌室や飼育施設、水族館の水処理施設、汚泥脱水機等の水質浄化設備を見学した。裏側見学終了後には、動物たちのショーが行われるアクアスタジアム内で質疑応答が行われ、参加した会員各位からの水処理や発電施設など技術的な質疑はもちろんのこと、参加した子供達からも積極的に質問がなされた。質疑応答では討議が盛り上がり、次回のショーの準備が遅れそうになる一幕もあった。

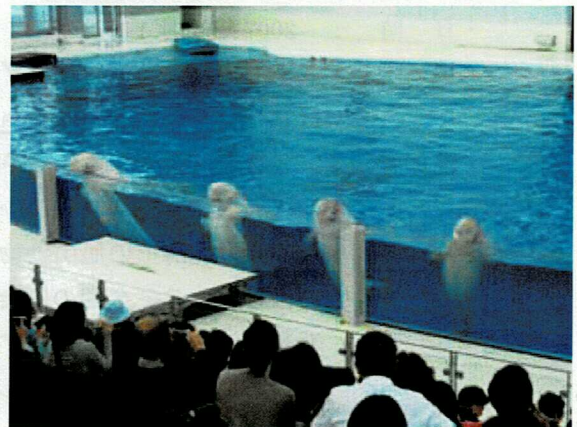
### <感想>

ファミリー見学会ということで、青年委員会関係者の普段は見ることの出来ない一面が垣間見られ、コミュニケーションの醸成がはかれたように思う。また、水族館はお客様相手の施設であるため、技術的な面においても顧客の視点にたった設備運営がなされていたことが大変興味深かった。

(新井靖典 記)



見学会の様子（4月度月例会）





## 5月度月例会

- ・例会名 : ビール工場見学会&若手技術者交流会
- ・日時 : 2007年5月18日(金) 15:00~17:00
- ・場所 : アサヒビール株式会社・茨城工場  
HP <http://www.asahibeer.co.jp/factory/brewery/ibaraki/index.html>
- ・参加者 : 5名大人
- ・内容 : 不二家の事件を嚆矢として、改めて食品の安全・安心が問われております。  
今回の例会は、アサヒビール株式会社・茨城工場の見学会及び、同社所属の技術者との交流会を開催した。

### <見学内容>

見学会では、専任のご案内係に加え、同社の技術者がフルアテンドにて、さまざまな疑問・質問にも分かりやすく丁寧にご案内いただきました。

まずは、オリエンテーションシアターにてアサヒビールの取り組みについてのビデオを鑑賞後、仕込室(大きな釜の中で原料を煮込み、ビールの元となる麦汁をつくる。)や中央コントロールルーム、原料展示のコーナーでは、ビールの主原料である麦芽やホップに実際に触れることで、原料へのこだわりを実感。タンクをかたどったバーズアイビジョンでは、発酵の仕組みや発酵中の映像を観覧。発酵・熟成のタンク(外観のみ)、でき上がったビールをびんや缶に詰める製造ラインを見学した後に、工場内で発生する副産物や廃棄物の再資源化の取り組みについてご説明いただきました。

交流会の会場となるアイムタワーへ移動し、おまじかねの試飲と、アサヒビールの技術者と交流会の場を持たせていただきました。世界のビールの話や、ビール業界の動向の話、ビールを開発する技術者としての苦労や喜びについて、普段ではなかなかうかがうことができない内容をおきかせいただきました。ありがとうございました。



### <感想>

参加者が少なかったのが残念だったのですが、同社のビール製造に対する真摯な取り組み姿勢を感じ取ることができました。やはり、ビールはできたてが一番うまいですね!!

(久保康弘 記)



## 青年技術士交流実行委員会の体制

体制および委員、委員補佐


委員長	時合健生（化学部会）	
副委員長 3名	小松 秀次（建設部会）	
	久保 康弘（生物工学部会）	
	平野 輝美（化学部会） 日韓技術士会議実行委員会兼務	
委員 17名	野村 貢（建設部会） 会員拡大・技術士活性化推進特別委員会兼務	
	前田 秀一（化学部会） 報酬委員会兼務	
	中村 弘（水産部会）	青木 ゆかり（情報工学部会）
	黒澤 之（建設部会）	黒崎 靖介（環境部会）
	新井 靖典（建設部会）	掛川 昌俊（衛生工学部会）
	井上 譲（建設部会）	青木 卓也（生物工学部会）
	【北海道支部】 椿谷敏雄（建設部会）	
	【東北支部】 藤川洋一（建設部会）	
	【北陸支部】 堀田 亨（建設部会）	
	【中部支部】 濱田常雄（建設部会）	
	【近畿支部】 大氏 正嗣（建設部会）	
	【中・四国支部】 松木 宏彰（応用理学部会）	
	【九州支部】 田辺 努（建設部会）	
委員補佐 (A) 2名	内藤竜治（電気電子部門）	
	倉井 真里（建設部門）	
委員補佐 (B) 14名	伊藤英忠（応用理学部門）	山田 英樹（建設/上下水道部門）
	斎藤 稔（機械部門）	園家 研一郎（航空宇宙部門）
	柳澤 剛（農業/応用理学部門）	今野 明（電気電子部門）
	田村 裕美（建設部門）	仁田 晃人（電気電子部門）
	石関 学（電気電子部門）	井口慎也（情報工学部門）
	長内沙織（化学部門）	鈴木史人（経営工学部門）
	鈴木圭司（建設部門）	秋山 信芳（上下水道部門）


※ 委員は推薦部会、委員補佐は所属部会を併記した。

※ 委員補佐(A)は正会員であるが正会員歴1年未満の者、委員補佐(B)は技術士補又は修習技術者



メンバー紹介【委員】


氏名	時合 健生 (ときあい たけお)	
技術部門	化学部門	
役割	委員長、シンクタンク活動グループリーダー	
勤務先	出光興産(株) 営業研究所 設備油グループ	
専門技術	工業用潤滑油の開発 (空調機用冷凍機油、カーエアコン用冷凍機油等)	
趣味・特技	野球 (監督兼プレーヤー) 及び (付き合い) マージャン、懇親会大好きです。最近では長男 (小4) のサッカー試合見学も楽しんでいます。千葉県大会で優勝しました。将来はJリーガー目指させています。	
メッセージ	<p>もうすぐ45才になり、若手と思っていた30才前半から10年以上も会活動に従事してきました。まだまだ青二才ですが、会活動に何らかの貢献をしていきたいと思えます。</p> <p>当委員会も設立して未だ2年しか経過していない、いやもう2年経過したのか等、スタッフや委員会以外の会員にとって捉え方が異なると思います。私は、これからの数年が当委員会の趨勢を帰する年月になるかと思っていますので、30才台の初心に戻って会務に取り組んで行きたいと思えます。</p> <p>とにかく仕事は、もうかってなんぼの世界ですが、数十年、いや数百年続いている老舗の経営理念に共通するものは、「もうかる」よりは「役に立つ」という理念です。特に日本には100年以上続いている老舗が1万社以上あるとのこと。欧米やアジアでは観られません。何を言いたいかというのと、継続的な会活動は、会員や関係ステークホルダーに「いかに役に立つか」だと思えます。この理念の下に会務を引っ張って行きたいと思えます。</p>	

氏名	小松 秀次	
技術部門	建設部門	
役割	副委員長、広報担当	
勤務先	株式会社石勝エクステリア	
専門技術	環境緑化 (緑地管理マネジメント、樹木診断治療)	
趣味・特技	釣り、仕事以外の庭いじり、お酒	
メッセージ	<p>若手技術者の部門を越えた交流の場である、青年技術士交流実行会委員会の世話役をしています。本業では今年度から営業部門に異動になり、社内外の潤滑油的な役割を担っております。言わば「のりしろ」です。社外活動である当委員会活動でも「のりしろ」になっている自分に気付き、これも役回りなのかなと思っております。</p> <p>さて、今年度は主に広報活動を担当しました。お蔭さまで優秀なスタッフの活躍で、青年委員会活動を一般に広くアピールできる基盤が整備されました。広報スタッフの皆さま、ありがとうございました。</p> <p>個人的には引退の年齢になりましたので、邪魔にならないよう次世代スタッフのサポートに回ろうと考えております。</p>	



メンバー紹介【委員】


氏名	久保 康弘
技術部門	生物工学部門
役割	副会長、広報WG、テクノツーリズム、シンクタンク
勤務先	久保康弘技術士事務所
専門技術	医薬・化粧品・食品のGMP、バイオマス利用技術
趣味・特技	阿波踊り
メッセージ	<p>気がつけば、青年技術士懇談会時代から通算して2期4年が経過しておりました。</p> <p>技術士補時代（平成8年～）から青技懇に顔を出しておりましたので、はや10年・・・。</p> <p>その間に、自分自身の環境は劇的に変わりました。製薬会社のサラリーマンから投資会社を経て、技術士事務所を開くことになりました。大学の客員になることもありました。</p> <p>変わらないのは、純真無垢な、穢れを知らぬ私の内面だけかもしれません？（冗談です。）</p> <p>副会長を拝命したにもかかわらず、自営業のためか、世間が休みの時でも仕事が入るので青年委員会の会務がなかなか担当できず、皆様には本当に申し訳ないことばかりでした。</p> <p>今期は、シンクタンク活動を通じて、全国の青年層が技術士という資格に寄せる期待が非常に大きいことを肌で感じました。「技術士という資格の地位向上」は「職業としての技術士の確立」でもあることなのです。これは国際化よりも重要であると感じております。</p>

氏名	野村 貢	
技術部門	建設部門/総合技術監理部門	
役割	委員（前委員長）	
勤務先	株式会社 建設技術研究所	
専門技術	道路交通、トンネル	
趣味・特技	トンネル掘り	
メッセージ	<p>12月に委員長人事を行い、前委員長になりました。45歳ということで委員も定年ということになります。この間、日韓青年技術士の交流をスタートさせたり、YEAPEO 派遣を継続性のあるものにしたたり、全国支部委員の本部委員化を進めたりと、メンバーの皆さんには本当にご苦労様でした。</p> <p>青年技術士、美しい響きを持つ言葉です。青年は青年足らんとするのではなく、自らの足跡をもって語る。自分が美しきものであることに納得してしまっはいけません。これまでは青年技術士の委員会を形作る季節でした。ここに留まっはいけません。更なる地平線を求めて皆さん頑張ってください。</p>	



メンバー紹介【委員】

氏名	前田 秀一
技術部門	化学部門、総合技術監理部門
役割	会計、国際WG
勤務先	王子製紙株式会社
専門技術	情報記録材料、高分子
趣味・特技	乱読
メッセージ	<p>最近、技術士会関係からの依頼で（分担）執筆した本が、八重洲ブックセンターの専門書コーナーでベストセラーの10位に入りました（印税で儲けるには程遠い状態ですが）。</p> <p>その他にも、技術士になり技術士会に入ったメリットって結構あります。その中でも青年委員会で個性的な面々とめぐり合えたのが、一番の大きな財産です。</p> <p>今、青年委員会の有志で何かテーマを見つけて本を出版したら、それなりに面白いものになるかも、と思っています。青年委員会は、かなり国際的な活動をしています。そんなところが切り口になるかもしれません。</p>

氏名	黒澤 之	
技術部門	建設部門 / 総合技術監理部門	
役割	支部交流WG、広報WG	
勤務先	株式会社 横浜みなとみらい21	
専門技術	都市交通施設	
趣味・特技	（趣味）政策経営研究 （特技）武道と書道を合計してようやく11段	
メッセージ	<p>職業倫理とは何か、そんな自問自答をこの数年間繰り返してきました。</p> <p>精神的に追い詰められる極限状態の日々の中で、業務支援に関わった日韓会議沖縄大会の成功に一定の役割を果たすことができました。一方、委員会活動では今も十分な働きができない状況の中、委員補佐を含む当委員会の関係者に支えられて乗り越えています。関係諸氏に御礼申し上げます。</p> <p>私だけに限ったことではなく、日々の仕事は複合領域の世界そのものです。逃げることなく問題解決に努めてこそ、業務経験が生きてきます。昨年は東京大学大学院法学政治学研究科や日本環境衛生センターの環境関連法規の講師を務めました。工学と法学の両方を研究し、実務に活かした副産物とます。私が身につけてきた体系的なモノの見方や考え方は、この委員会の運営を通し、さまざまな部門・立場の仲間と語り合ってきた成果と確信しております。</p>	



メンバー紹介【委員】

氏名	青木 ゆかり
技術部門	情報工学部門、総合技術監理部門
役割	例会支援WG、修習技術者WG
勤務先	株式会社日本総合研究所
専門技術	情報工学
趣味・特技	おいしいものを食べること、食べ物の本を読むこと
メッセージ	<p>いろいろな人に助けをもらいながら、技術士になりました。</p> <p>青年委員会の活動を通して、助けをもらった先輩方への感謝の想いを若い技術者の皆さんに返していけたら、と思っています。</p>

氏名	中村 弘
技術部門	水産部門
役割	ロゴWG
勤務先	オルガノダニスコフードテクノ株式会社 技術開発部
専門技術	食品素材・添加物の研究開発・応用開発
趣味・特技	食ること、飲むこと、騒ぐこと、歌うこと、話すこと
メッセージ	<p>食品に関連する仕事について10何年。</p> <p>近年の食品分析技術の発展により、あいまいな味覚を数値化できるようになりつつありますが、まだ食べたり飲んだりして評価するベロメーターに頼ることが多いのが現状です。</p> <p>そのためか、最近はメタボ街道一直線の自分です。</p> <p>しかし、今後も食べ歩き飲み歩きをして「食ること＝幸せなこと」の追求を行っていきます。</p> <p>サポートしてくれる方はよろしくお祈りします！</p>



【メンバー紹介【委員】】


氏名	黒崎 靖介 (くろさき やすすけ)
技術部門	建設部門、環境部門、総合技術監理部門
役割	
勤務先	日本工営株式会社
専門技術	環境影響評価、環境保全計画
趣味・特技	乱読、だらだら泳ぐこと、ダイビング
メッセージ	<p>3年間お世話になり、ありがとうございました。結局最後まで、業務その他の活動との調整をうまく行うことができず、他の委員、委員補佐の方が尽力された結果を眺めているだけになってしまい、役に立つことはできなかったと振り返っています。</p> <p>ただ、私自身にとっては、貴重な勉強をさせて頂いた3年間でした。深く感謝申し上げます。</p>

氏名	新井 靖典
技術部門	建設部門 総合技術監理部門
役割	修習技術者WG 特別シンポジウム
勤務先	西武建設株式会社 土木本部技術設計部
専門技術	廃棄物最終処分場
趣味・特技	ゴルフ、ダーツ、酒（最近洋酒にハマリつつあります） 英会話？（サボり中）
メッセージ	<p>青年委員会も実行委員会となってから2年が経過し今年で3年目です。これまでの2年間は、青年委員会にとって組織としての足場を固める段階であったと思います。3年目の今年からは、この2年で固めた基礎の上で、発展的な活動を展開していく時期にきています。そうは言いつつも、懇談会時代と異なり実務としてやるべき事が沢山あるため、つつい消極的になりがちな自分がいたりします。そんな怠け者の私ですが、皆さんと協力して青年委員会をより魅力的な『場』にしていきたいと考えています。</p> <p>これからもよろしくお願ひします。</p>




メンバー紹介【委員補佐】

氏名	倉井 真里
技術部門	建設部門
役割	国際交流WG (CAFEO/YEAFEO 担当)
勤務先	株式会社エコルシステム ((株) 日比谷アメニスより出向)
専門技術	パークマネジメント、緑地環境評価
趣味・特技	楽器演奏 (ピアノ歴約30年)、庭いじり、食べること、散歩
メッセージ	<p>昨年から今年にかけて、主に国際交流を中心として、全国大会やロゴ変更などの個別プロジェクトでもお手伝いしてきました。</p> <p>青年委員会でも「2007年問題」並みにスタッフの高齢化やそれにとともなう体力低下(?)の問題が叫ばれる中、今年も委員会活動のための時間をなんとか捻出して、精力的な活動をしたいと思っております。</p> <p>海外の若手技術者の勢いに押されぬよう頑張ります。</p>

氏名	内藤 竜治	
技術部門	電気電子部門	
役割	まだ特になし	
勤務先	特殊電子回路株式会社	
専門技術	組み込みシステム	
趣味・特技	回路設計、辛いもの (ラー油系)	
メッセージ	<p>昨年の6月ごろ委員補佐として入ったものの、早いものでもう1年になります。気が付いたらいつの間にか委員になっていたという感じなので、まだまだ右も左もわからない状態です。</p> <p>事情によりなかなか土日は参加しづらいのですが、何とか頑張っついていきたいと思っています。</p> <p>仕事は秋葉原で電子回路設計などを行っています。秋葉原にある中華料理の辛い店はすべて食べ尽くしたと自負しています。</p>	



メンバー紹介【委員補佐】


氏名	伊藤 英忠	
技術部門	応用理学部門, 環境部門 (技術士補)	
役割		
勤務先	新地研工業株式会社	
専門技術	地質調査, 解析	
趣味・特技	水泳, 史跡巡り (出張ついでに良くやっています)	
メッセージ	<p>青技懇と関わっているうちにここまで来てしまいました！          ? 回生1年。</p> <p>今年は、香港から一団が来日しそうなので、2003年のこともあるし東京～京都のどこかで、          合流できたらと思っています。</p>	

氏名	山田 英樹
技術部門	建設・上下水道 (技術士補)
役割	修習技術者WG
勤務先	三浦市役所
専門技術	下水道計画
趣味・特技	海外旅行、競馬、料理・弓道、書道
メッセージ	<p>今年度はあまり活動できなかった年でした。取り巻く環境が大きく変わる1年だったので、これからのやりようを考えよう。自己研鑽を続けないといけないと改めて考える今日この頃です。</p>



メンバー紹介【委員補佐】


氏名	齊藤 稔
技術部門	機械部門（技術士補）
役割	国際交流 WG
勤務先	株式会社 藤精機製作所
専門技術	機械加工、加工機
趣味・特技	カート、スノボ、ガンブラ
メッセージ	<p>今年で委員補佐を辞任します。</p> <p>補佐としてはもう年だし、いい加減技術士にならないと。</p> <p>青年委員会には、本当にお世話になりました。</p> <p>委員会活動を通して、多くの事を学びました。</p> <p>心から感謝申し上げます。</p> <p>これからは参加者として、活動に加わって行きたいと思います。</p> <p>そして技術士になったら、またお手伝いさせてください。</p>

氏名	今野 明	
技術部門	電気・電子部門（技術士補）	
役割	ロゴ WG	
勤務先	レーザーテック株式会社	
専門技術	電子回路（イメージセンサ、FPGA、ADC/DAC）の設計、 検査	
趣味・特技	ドライブ、スキー	
メッセージ	<p>3年前から青年委員会の活動に委員補佐として参加させていただいておりますが、実際には会合に顔を出すのが精一杯で、積極的に動いておりません。それでも、何か自分にできることを見つけて、貢献できるよう努力したいと思っています。</p>	




メンバー紹介【委員補佐】


氏名	柳澤 剛
技術部門	農業部門・応用理学部門（技術士補）
役割	
勤務先	清瀬市郷土博物館
専門技術	地域博物館に関わる農業及び応用理学的事項
趣味・特技	展覧会を見に行くことや旅行が趣味です。一日のんびり（職場ではない）博物館や美術館にいると心が和みます。
メッセージ	<p>所属部会とは異なり、同世代の「仲間」が多くいる青年委員会はモチベーションの維持には欠かせないと考えております。ですが、仕事の関係でなかなか例会等に参加できず申し訳なく思っております。</p> <p>展示関係科学及び保存科学関連の情報交換をしてくださる方を常に探しております。</p> <p>今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。</p>

氏名	田村 裕美	
技術部門	建設部門	
役割	広報WG	
勤務先	株式会社ファーストエスコ	
専門技術	廃棄物最終処分場、GIS デジタル化	
趣味・特技	野菜作り、釣り、ドラム、ゴルフ、宴会	
メッセージ	<p>2006 年度は異業種への転職に二次試験合格とステージが広がった 1 年でした。</p> <p>これも委員会を通しての体験や人との交流にホイップされたと言っても過言ではありません。感謝。</p> <p>今や青年委員会の活動は世界に、過去に未来にと縦横ななめに年々拡大しており、堅気の技術系お仕事だけしていたらとても経験できない事がいっぱいあります。</p> <p>こーんなに面白い事はもっとみんなに広めなくちゃ！という勝手な使命感に燃えて、広報を担当しています。まだまだ気持ちに実務が追い付いていない状態ですが、みなさまの手を借りつつ（力づくでも）、広く深く浸透させるために今後も走り回ります。</p>	
		5 月例会・アサヒビール工場にて



メンバー紹介【委員補佐】

氏名	石関 学	
技術部門	電気電子部門（修習技術者）	
役割	広報 WG、テクノツーリズム	
勤務先	アトムメディカル株式会社	
専門技術	生体計測技術、組込みシステム・電気・電子回路設計	
趣味・特技	楽器演奏（エレキギター、アコースティックギター、ベース）	
メッセージ	<p>青年委員会に参加させて頂いてから1年が経過しました。当初は右も左もわかりませんでした。委員・委員補佐の皆様からの暖かいご指導、ご協力はもちろんのこと、飲み会、小旅行、夜遊び（朝まで！）などを通じて有意義な活動をさせて頂いています。</p> <p>正直、委員会の活動に楽しことはありません。しかし、委員会活動の経験を業務に、また業務の経験を委員会活動に、とフィードバックを掛け合うことができます。つまり、同じ時間で2倍の経験を蓄積できている！私のようなヒョッコにとっては、ただ働いているだけでは得られない貴重な時間です。</p> <p>医療と工学の橋渡しをする技術者になることが、私の目標です。そんな部門、技術士会にないですが・・・作ってしまいますか！・・・それくらいの勢いでがんばっていきます！！</p>	

氏名	井口 慎也	
技術部門	情報工学部門(修習技術者)	
役割	広報 WG	
勤務先	(株) 日立製作所 システム開発研究所	
専門技術	モバイルシステム向け映像表示技術	
趣味・特技	絵画創作、3DCG制作、映画鑑賞、音楽鑑賞、ジム	
メッセージ	<p>皆さん、こんにちは。2007/1 月末より、青年委員会に委員補佐として参加させて頂きました。企業の研究所に9年勤めております。今まで、「フラッシュメモリに制御回路」から「ディスプレイを利用したコミュニティーサービス」さらには「企業情報システム」、そして「映像表示システム」に至るまで、様々な研究開発に携わってきました。そして感じたことが、いかに業種間連携が重要かということです。技術士会は、様々な部門の技術者が一同に会する場所だと聞いております。青年委員会の一員として、異業種の技術者同士の出会いとつながりを支援し、少しでも良い社会を作るお手伝いできればと思っております。</p> <p>また趣味で絵を描いております。Webに掲載しておりますので、よろしければご覧ください。 <a href="http://shinya.mods.jp/private/">http://shinya.mods.jp/private/</a></p>	



メンバー紹介【委員補佐】

氏名	長内 沙織
技術部門	化学部門（修習技術者）
役割	国際交流 WG
勤務先	ムラタ計測器サービス株式会社 某大学院工学研究科博士後期課程在学中
専門技術	環境化学、分析化学
趣味・特技	料理、合気道、水泳
メッセージ	<p>たまたま青年委員会の活動に参加したのをきっかけに、マレーシアまで行かせていただきました。</p> <p>最近は何かがつかず欠席が多いですが、国内外問わず様々な考え方を持った方々と知り合い、刺激を受けています。機会に恵まれているので、今後出来るだけ多くのことに挑戦していきたいと思っています。</p>

氏名	鈴木 史人
技術部門	経営工学部門（修習技術者）
役割	広報 WG
勤務先	（株）東芝
専門技術	半導体、品質管理
趣味・特技	スポーツ観戦
メッセージ	<p>新しく、委員会のお手伝いをするようになりました。部会から、「若い人は、青年委員会に積極的に参加し、視野を広くしたほうが良い。」と推薦されました。様々な分野の人と知り合い、非常に有意義に活動させてもらっています。</p> <p>二次試験を早く突破して、技術者人生を思う存分楽しみたいと思います。</p>



メンバー紹介【委員補佐】

氏名	鈴木 圭司
技術部門	建設部門（技術士補）
役割	例会支援WG
勤務先	株式会社 拓進工営（施工管理事業本部）
専門技術	施工計画・施工管理、河川設計、電子納品 CAD 製図基準
趣味・特技	バドミントン（昔〇〇県代表）、図面書き（自分で書いた方が早い）
メッセージ	<p>平成19年1月より、青年技術士交流実行委員会にお世話になっております。</p> <p>私個人的な利点として・・・</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 専門的な知識を持った方達と交流ができる。</li> <li>② ディスカッションや人前で話をすることが好きになる。</li> <li>③ 委員会で培ったノウハウが仕事やプライベートで役にたつ。（役に立ちそう・・・）</li> <li>④ 2次会（酒会）が楽しみ。</li> </ol> <p>全ての人に該当するか疑問ですが、もっと進歩できると向上心があり、前向きな方にとって有意義な場だと思います。</p>

氏名	木崎 人史
技術部門	建設部門（技術士補）
役割	例会支援WG
勤務先	株式会社 拓進工営（施工管理事業本部）
専門技術	施工計画・施工管理、河川設計、電子納品 CAD 製図基準
趣味・特技	バドミントン（昔〇〇県代表）、図面書き（自分で書いた方が早い）
メッセージ	<p>平成19年1月より、青年技術士交流実行委員会にお世話になっております。</p> <p>私個人的な利点として・・・</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 専門的な知識を持った方達と交流ができる。</li> <li>② ディスカッションや人前で話をすることが好きになる。</li> <li>③ 委員会で培ったノウハウが仕事やプライベートで役にたつ。（役に立ちそう・・・）</li> <li>④ 2次会（酒会）が楽しみ。</li> </ol> <p>全ての人に該当するか疑問ですが、もっと進歩できると向上心があり、前向きな方にとって有意義な場だと思います。</p>



## 第36回日韓技術士会議沖縄大会(サッカーおよび第5分科会)報告

青年委員会副委員長／日韓技術士会議実行委員 平野輝美

### □1. はじめに

青年技術士交流実行委員会(以下、青年委員会)は韓国技術士会青年委員会と連携し、第36回日韓技術士会議(沖縄県那覇市)において、親善サッカー大会および第5分科会を実施した。これらのイベントを通して、韓国技術士会青年委員会諸氏との交流を図る事ができ、成果の多い会議であった。親善サッカー大会および第5分科会について概略をまとめ、報告する。

### □2. 日時、タイムテーブル

日時： 2006年11月12日(日):親善サッカー大会

14:00 那覇空港出発

15:00 南風原町黄金森運動公園グラウンドにて大会開会

15:00～ サッカーゲーム

19:30～ 歓迎会(海援隊 at 那覇グランドホテル地下)

日時： 2006年11月13日(月)

09:00～ 合同シンポジウム

13:00～ 第5分科会

18:30～ 晩餐会

### □3. 親善サッカー大会

南風原町宮, 黄金森運動公園内グラウンドにて, 日韓技術士親善サッカー大会を開催した. 写真1に会場の様子を示す. 当日はこのグラウンドにゴールやラインなどの準備を頂き, サッカー場として十分な状態として使わせて頂いた. グラウンドの脇にはテントなどの設置も頂いた. ボール等の細部にわたる準備や, 飲み物などの快適な環境を整えて頂いたことに感謝いたします. このような会場を準備頂いたのは沖縄県技術士会玉城様はじめご支援いただいた方々のご尽力の賜物である. ここに深く感謝をさせて頂く.

さて, ゲームであるが, 写真2に示す開会式の後, 両国技術士による試合となった. 25分ずつの全後半を闘い, 1対1の引き分けという結果であった. 親善を目的とするゲームであり, 最善の結果であったと思う.



写真1 サッカー会場



写真2 開会式の様子



本サッカー大会では、技術士同士のゲームの他に、ご参加いただいた子供たちとご婦人方によるテストマッチや地元の中学生や地元チームと韓国技術士チームとのゲームなどを行い、交流を深めて頂いた。子供たちにはすばらしい経験となったと思う。

本サッカー大会の開催についてご支援いただいた、沖縄県技術士会の方々および会場にてご支援いただいた南風原の方々に感謝するものであります。



写真3 サッカーゲームの様子

また、本大会について12月7日までにご寄付を頂いた方々のお名前を示し、感謝いたします。日韓技術士会議実行委員藤井様(10万円)、同委員長中山様(1万5千円)、同委員青葉様、安達様、笠原様、橋本様(以上1万円)、宮原様、中原様、森田様、市村様、稲垣様、中西様(以上5千円)、技術士会常務理事島山様(1万円)、平野(1万円)、合計20万5千円。

#### □4. 歓迎会(ウェルカムパーティ)

サッカーゲームの後、韓国技術士会青年委員会サッカーチームのメンバーとご家族を招待して歓迎会を開催した。日本のサッカーチームメンバーや日韓技術士会議委員やその他の方々のご参加を頂き、韓国側参加者大人約60人、子供約20人、日本側参加者大人約25人、子供約10人の総勢約110人位のご参加を頂き盛大に開催した。



写真4 懇親会の様子

当日のサッカーゲームにおける日韓両国チームの優秀選手としてそれぞれ得点を獲得した選手が選ばれ、副賞が贈られた。また、韓国青年技術士により優勝チームに贈るべく準備いただいたトロフィーについて引き分けということで開催地の沖縄県技術士会に贈呈することで一致した。写真4は日韓それぞれの選手が優勝カップで美酒を頂いた時の様子である。来年につなげる良き印象を得て無事に大会を終了することができた。



写真5 講演の様子

#### □5. 第5分科会

第36回日韓技術士会議沖縄大会では、第5分科会として青年委員会主催の分科会を開催した。準備の過程における申し合わせにより、今回は英語を使った分科会となった。今後の開催要領は随時検討を行っていく。



写真6 分科会参加者



以下に講演名,講演者(敬称略)および概要を示す.

[韓国] (順不同)

火力発電所の 環境障害 種類와 對策

金 延 洙<sup>1)</sup> (Kim, Yun Su)

1. 概 要

人類が活動を維持하기 위해서는 Energy는 必需 不可欠한 것이다. 最近 電力需要의 急増에 따른 火力發電所 建設이 増大되고 있으며 大用量 火力發電所의 建設이 集中 建設됨에 따라 環境에 대한 問題點이 深刻히 擡頭되고 있다. 美國 Energy部 傘下 Energy情報局(EIA)은 2004年度 改訂版 世界 Energy 前景(International Energy Outlook 2004) 報告書를 아래(下)와 같이 發表하였다.

Safety in Hydrogen Economy

尹 在 建<sup>1)</sup> (Yoon, Jae Kun)

A hydrogen economy is desired in order to solve the ill effects of using hydrocarbon fuels. Furthermore, the remaining supply of hydrocarbon resources in the world is limited, and the demand for fuels is increasing, particularly in China, India and other developing countries. In a hydrogen economy, hydrogen fuel would be manufactured from mostly renewable energy sources, replacing gasoline, kerosene, and diesel fuel for transportation. The end use of the hydrogen would be via direct combustion or by fuel cell burning producing only water vapor, and no greenhouse gases. The fuel cell is also more efficient than an internal combustion engine. The internal combustion engine is said to be 20-30% efficient, while the fuel cell is 75-80% efficient (not accounting for losses in the actual production of hydrogen) and together with the electric motor and controller, the drive-train overall efficiency approaches 40% with low idling losses. From wood, to coal, to oil, to natural gas, to hydrogen, a clear trend to lighter, cleaner fuels is apparent. Hydrogen is the latest in the succession of energy providers, with many social, economic, and environmental benefits to its credit. There are several issues if we are to move toward a hydrogen economy. Infrastructure development is one issue. Safety codes and standards is another. We need to develop codes and standards so that people don't make mistakes. Hydrogen is a safer fuel than gasoline and others but without the right materials and the right designs, safety can become a problem.

日常生活에서 가스(Gas)安全!

邊 壽 童<sup>1)</sup> (Byun, Soo Dong)

1. 序 頭

國內 Gas 消費量의 增加趨勢와 가스(Gas)事故 發生頻度 事故의 原因 등을 考慮할 때 가스(Gas)事故의 危險性은 繼續 높아지고 있습니다. 따라서 가스(Gas)의 安全한 使用要領을 바로 알아서 事故를 豫防하여 平常時 安全을 지키는 智慧가 必要합니다.

[日本] (順不同)

中部青年技術士会 持続可能な交通を考える WG (WG-TMO) の活動報告  
The Activity Report on the Working Group "Traffic Management Orchestra" in Chubu Branch  
福野貴之 (建設)

The WG-TMO has been established for aiming to realize a sustainable transport society using theoretical and practical aspects by the voluntary professional engineers in 2002. Our main activity is to create a board game for understanding the smart use of a car and the ways to save our planet.

Practical use of local energy 地域エネルギーの活用  
有地裕之 (上下水道)

Abstract

I illustrate the example of practical use of local energy. The methane generated in the process of sludge disposal produced electricity. We built the system which melts the snow on a road using the heat of the groundwater discharged from a hospital. The road was cooled by the heat pump which was not used in summer.

沖縄における赤土流出とその対策  
Title: Red soil erosion and conservation in Okinawa islands  
氏名: 富坂 峰人 (建設部門、総合技術監理部門)  
黒崎 靖介 (建設部門、環境部門、総合技術監理部門)  
Name: Mineto TOMISAKA (Civil Engineering, Comprehensive Technical Management)  
Yasusuke KUROSAKI (Civil Engineering, Environment, Comprehensive Technical Management)

Abstract:  
Okinawa is famous for its beautiful sea. But once it rains, the soil eroded in upland flows into the coral sea, and it causes serious damage to the aquatic ecosystems. Many measures to prevent this environmental issue have been conducted.

日韓技術士会の青年委員会として2回目の分科会であったが、まだまだお互いに意思の疎通がうまくできていない状況も観察された。分科会としての設定状況など、来年に向けて改善を図っていく必要がある。準備等について相互に密に相談等を行っていくことが求められる。次回における課題である。



写真7 分科会にご参加いただいた方々



### □6. 晩餐会

今回の会議では晩餐会会場が2カ所となった。それぞれ、連携して進行を図り、快適かつ有意義に懇親を図ることができたと思う。今年のサッカーの結果が引き分けであったこともあり、サッカー杯について、沖縄県技術士会にお渡しして保管いただくこととなった。写真8に授与の様子を示す。韓国技術士会会長より沖縄県技術士会会長へと渡された。

また、多くの方々に出席いただき、盛大に晩餐会を開催して懇親を深めることができた。会場設定等の懸念された問題点についても解決され、快適な晩餐会であった。



写真10 晩餐会出席の皆様



写真8 サッカー杯の授与（沖縄県技術士会）



写真9 挨拶の様子

### 7. 今後の進め方

来年は韓国の主催にて開催される。来年は、韓国での2回目の開催となり、お互いに少し様子が分かってくることと思う。今後において良好に継続的に懇親と親交を深めていくために、問題と考えられることを真摯に検討して改善を行っていくことが求められよう。

青年技術士交流実行委員会、日韓技術士会議実行委員会と連携を図り来年へとつなげていきたい。

以上



## 海外交流成果発表

青年技術士交流実行委員会 長内 沙織

CAFEO-24/YEAFEO-13  
(Malaysia)

## 1. 派遣目的

CAFEO-24 及び YEAFEO-13 に参加することにより、参加各国とのコネクションを構築し、将来的に日本技術士会と海外エンジニア協会との関係を緊密にするとともに、国際的な技術動向の把握、青年技術士実行委員会メンバーの国際感覚の向上、若手技術者の国際舞台での経験を養う事を目的とする。

## 2. CAFEO-24 概要

CAFEO-24 は、ASEAN 加盟国の親交、理解、協力のための技術交流の場である。また ASEAN 事務局と提携する非政府組織 (AFEO) 各国のエンジニア協会が意見と経験の交換を行うために、毎年交代で主催し、開催される。今年はい M が主催した。

YEAFEO-13 は、CAFEO の中の 1 セクションという位置づけであり、YEAFEO 会員とその他参加国の代表が親交を深め、理解・協力し、意見と経験の交換を行うための会議である。

## 3. YEAFEO-13

## ● タイムテーブル

日付	項目	内容	場所	
11/30	Registration		Sunway Lagoon Resort Hotel	
	Opening Ceremony	Welcoming Speech		
	YEAFEO Program		Welcome Speech and Introduction	Sunway Pyramid Convention center
			Country Report	
			Conclusion and closing speech	
			YEAFEO Board Meeting	
			Gift exchange	
Photo Taking Session				
Welcome Reception		Sunway Lagoon Resort Hotel		
Social Activity	experience the night life in Malaysia			
12/1	Technical and Social Visit	Prime Minister's Office Putrajaya International Convention Center	Putrajaya	
	Technical visit to MMU, Cyberjaya	Arrival at MMU	MMU	
	Dinner	Malaysian Food		
	Social Activity	experience the Malaysian style of supper		
12/2	Malacca Historical City tour	China town St.Paul's Church	Malacca	
	Mini Malaysia Tour	Shopping		
	Banquet and Farewell dinner	Commencement of Dinner Conferment of the ASEAN Outstanding Engineering Awards 2006 Country Presentation/Performance	Sunway Pyramid Convention center	



● 11月30日

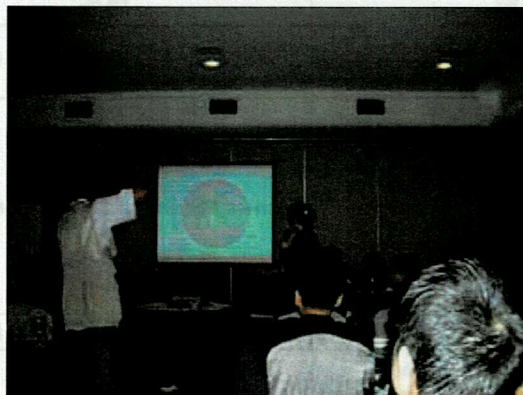
1) Opening Ceremony

CAFEOの議長であるYim Hon Wa氏を始めとするCAFEO関係者の演説や挨拶に加えて、民族衣装をまとった女性たちの歌や踊りのパフォーマンスで盛り上げた。



2) YEAFEO COUNTRY REPORT

30日に開催されたCountry Reportにおいて、日本は日本技術士会及び青年技術士交流実行委員会の紹介を行った。



3) YEAFEO Board Meeting

YEAFEO会議では、各国の代表によるYEAFEOの運営方法等について議論が行われた。





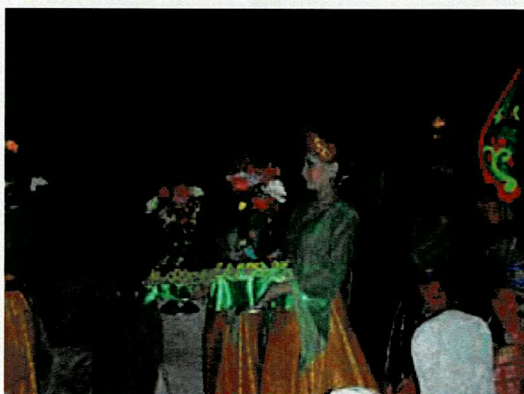
4) Gift exchange and Photo Taking Session

マレーシアと各国の代表者 1 名へ記念品の交換が行われた。その後マレーシアから各国の参加者全員に記念品が手渡された。その後順番に呼ばれ、各国とのプレゼント交換及び写真撮影が行われた。



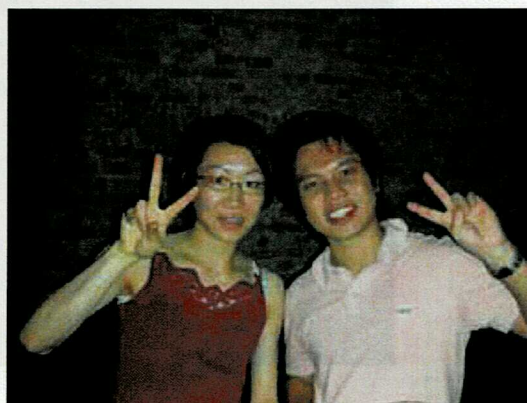
5) Welcome Reception

食事を兼ねて行われた Welcome Reception では、民族衣装の女性たちが場を盛り上げた。



6) Social Activity- experience the night life in Malaysia

数台の車に分乗して、ディスコに行った。アルコールが入ってかなり盛り上がり、ホテルに戻ったのは 2 : 00 頃だった。





● 12月1日

1) Technical and Social Visit

Putrajaya は、連邦直轄領 3 地域の 1 つであり、マレーシア政府が直接統治している行政上の首都である。Putrajaya State Masque、Prime Minister' s Office、Putrajaya International Convention Center を見学した。



2) Technical visit to MMU

Cyberjaya の代表的な施設の 1 つである MMU (MULTIMEDIA UNIVERSITY) を訪問した。各国からの留学生を多数受け入れや、日本の技術提供が大きいという説明を受けた。



3) Dinner

民族衣装の男女が踊りで場を盛り上げていたが、途中からステージに上げられ、教えてもらいながら一緒に踊った。





4) Social Activity- experience the Malaysian style of supper

前日に続いて、ホテル近くの店で軽食を取りながら会話を楽しんだ。



● 12月2日

1) Malacca Historical City tour

China town (Petaling Street) 内にあるマレーシアに現存する最古の仏教寺院であるチェンフーテン仏教寺院に立ち寄った。



China town を抜けると、St. Paul' s Churchに着いた。寺院が多いChina town から一変してキリスト教会が見られ、不思議な街だった。





2) Mini Malaysia Tour

昼食に中華料理を食べた後、新しくできたショッピングモールで買い物をした。



3) Banquet and Farewell dinner

CAFE0-24 最後のプログラムとなる Banquet and Farewell dinner では、各国の出し物が披露され、場を盛り上げた。



4. 成果

各国との友好的な交流を積極的に進めたという点では、各国の参加者にコミュニケーションをとることで成果を得られたと思う。

またYEAFEO会議では、日本技術士会及び青年技術士実行委員会をアピールすることができた。同時に日本技術士会パンフレット（英語版）を多くの参加者に配布した。

帰国後はYEAFEO各国の参加者が集うMLに加えられ、現在でも公私において交流は続いている。

全体を通じ、参加各国エンジニア協会の若手とのコネクションをより密なものにするという目的は十分達することができた。

個人的な成果としては、国際会議での発表や他国のエンジニアとの交流という経験を通して、語学や自己のモチベーションの向上等、多くのことが身に付けることができた。



# 青年技術士交流実行委員会 会誌

## 添付資料

1. 青年技術士交流実行委員会活動紹介ポスター（全国大会展示）

2. 青年技術士交流実行委員会紹介リーフレット（1次試験合格者歓迎会配布）

3. 3月例会告知ポスター

4. YEAFEO-13（マレーシア）紹介ポスター



# 青年技術士交流 実行委員会

## 支部交流

—全国の青年技術士とのネットワーク構築—

目指すは全国にいる青年技術士・技術士補の活性化と異業種同の技術交流の活発化。各支部と連携して技術士・技術士補を盛り上げる活動を推進します。



## 活動紹介

## シンポジウム

—公開シンポジウムの開催—  
—偉大なる技術者に学ぶ—

2003年江崎玲於奈博士、2004年坂村健博士を迎えての公開シンポジウムを開催。日本を代表する研究者や技術者を招き、公開シンポジウムを企画・開催しています。



## 月例会

—活動の原点—

自分の興味があることを具体的な形で楽しみながら実現する。これが前身である青年技術士懇談会から受け継がれているあらゆる活動の原点。見学会や講師を招いた勉強会、技術士と技術士補をつなぐ活動、ビアパーティーなど、楽しめない活動は意味がありません。



## 日韓技術士会議の主催

「第35回日韓技術士会議」において青年技術士を対象にした第6分科会の開催を青年技術士交流実行委員会が担当しました。韓国技術士会青年委員会と連携して、講演発表会と親善サッカー試合を行いました。



## 国際交流

—すべての国に技術者はかせない—

どこの国にも活気に満ちた若い技術者がいる。  
日本の青年技術士たちは海も越えます。  
これからは在日の各国エンジニアとの交流も模索しなければなりません。

## CAFEQ・YEAFOへの派遣

ASEAN加盟国の参加により毎年開催されている国際会議CAFEQ (The Conference of ASEAN Federation of Engineering Organizations) およびCAFEQの分科会としてASEAN各国の若手技術者が主催しているYEAFO (The Young Engineers of ASEAN Federation of Engineering Organizations) に2003年からスタッフを派遣。各国との交流を深めています。2005年からは日本技術士会の若手会員・準会員 (45歳以下) を対象に派遣者を公募しています。



青年技術士交流実行委員会は、日本技術士会正会員・準会員の資質向上と交流のために、様々なイベントを企画・実行していきます。



2007年 月例会

青年技術士交流実行委員会は、調査委員会 青年技術士懇談会を母体として2005年に設置されました。

日本技術士会では、満45歳以下の技術士を青年技術士として、部門や支部をまたいだクロスオーバーな交流を促進しています。

青年技術士交流実行委員会は、各支部の青年技術士組織をネットワークすると共に積極的に国内外の青年技術士と交流を行い、さまざまな主体的、側面的活動を行っています。

青年技術士交流実行委員会の行事は、支部ごとにも行われており、基本的に参加は会員、準会員、非会員を問いません。

また、自称青年技術士の方も大歓迎しています。

ぜひ、日本技術士会の「若い力」を一緒に盛り上げていきましょう。

【青年技術士交流実行委員会委員長  
時合 健生(化学部門)】



## 青年技術士 交流実行委員会

<http://www.engineer.or.jp/cmty/seinen/index.htm>

2007年 日韓会議サッカー交流



【委員会の活動目的】

- (1) 本会の運営についての企画、立案に対する若手技術士層としての積極的な参画、協力
- (2) 若手技術士向けを中心とした研鑽事業の企画・実施
- (3) 各支部における若手技術士グループとの交流による研鑽活動の活性化
- (4) 若手技術士としての国際交流の実施



はじめまして。

「もっと…」

「もっとよく確認すればよかった」

「もっと詳しく話を聞きたい」

「もっとうまく伝えたい」

「聞いたことと違う」

ちから

# 欲しい能力を手に入れろ!!

「長かった。理解してもらえた」

「良い人だった」

「素晴らしい話だった」

「考えていたとおりだった」

「また会いましょう。」

金曜日 午後00時

## — 青年技術士交流実行委員会 修習技術者企画例会 —

AM (10:00~12:00) 個人ワーキング  
コミュニケーション能力を自己分析するためのPDCAにトライ!

PM1 (13:00~14:00) 講演  
上田 雅美氏 (アネゴ企画代表)  
若手技術者のために特別講演

PM2 (14:15~17:45) グループワーキング  
「技術者としてのコミュニケーション」について  
グループディスカッションを展開

AFTER PM (18:00~20:00) 懇親会  
参加者は勿論、スタッフや若手技術士と  
コミュニケーションタイム!  
(c) Shinya Iguchi  
E-Mail: shinya@xi.mods.jp  
URL: http://shinya.mods.jp/private/

# 臨時開設! コミュニケーション部門!!

~「聞く」から『聞き出す』、「話す」から『伝える』~

日時:平成19年3月3日(土)終日(午前/午後のみ、懇親会のみでも参加可能です)  
場所:日本技術士会 葺手第二ビル 5階A~D会議室(最寄駅 日比谷線神谷町下車4b出口徒歩3分)  
会費:例会費 一般:¥1,000 学生:¥500 懇親会費 ¥3,000  
参加受付: seinen\_event@yahoogroups.jp  
※青年委員会HPからでも受付可能です<http://www.engineer.or.jp/cmtly/seinen/index.htm>

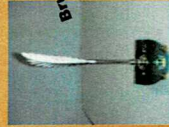


# 若手技術者の異文化交流 at 多分化の国マレーシア



**D A T A**  
 名：マレーシア  
 国期：2006.11.30～12.2  
 派運者：森内少輔  
 面積：33万km<sup>2</sup>（日本の約0.9倍）  
 人口：2,664万人  
 都：クアラルンプール  
 種：マレー系(68%)、中国系(26%)、インド系(8%)、その他(1%)  
 言：マレー語(国語)、中国語、タミール語、英語  
 宗：イスラム教(連邦の宗教)、仏教、原住民族信仰、ヒンドウー教、キリスト教、  
 主要産業：製造業、農林業、鉱業  
 通員：リンギ  
 在留邦人数：9,928人  
 在日マレーシア人数：9,008人

## YEA FEO Program 各国記念品 (2006/11/30)



2007年開催国！  
11/27～11/29

Philippines

Sunway Lagoon Resort Hotel



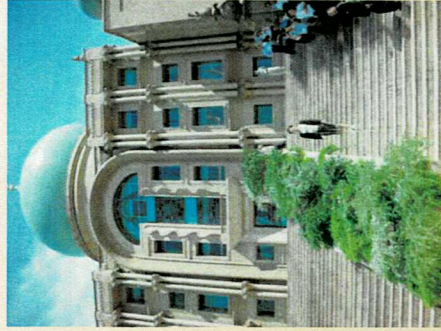
Malaysian members of IEM  
 ※IEM: The Institution of Engineers, Malaysia



## Technical and Social Visit ~ 2006/12/1 ~

Putrajaya

連邦直轄領3地域のひとつであり、マレーシア政府が直接統治している行政上の首都。



Petronas Twin Towers

20世紀の高層建築としては最も高い。高さ452m、88階建てツインタワーとしては世界一高い。

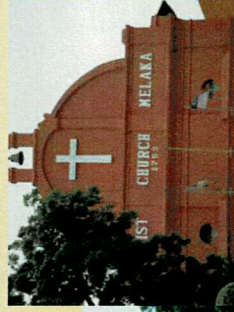
一施工  
 タワー1：閩組  
 タワー2：韓国のリムスン物産

## Malacca Historical City tour ~ 2006/12/2 ~

※1 サンチャゴ宮



※2 セントポールチャーチ



1396年頃  
 1511年  
 1957年  
 1999年

マラッカ王国建国  
 ポルトガルが東南アジアの拠点とする。  
 ポルトガル時代に要塞\*1やキリスト教会\*2を建設。  
 マラヤ連邦（現在のマレーシア）がとして完全独立。  
 “Historical City” と市政の承認を受ける。

※YEA FEO: Young Engineers of the Asian Federation of Engineering Organization's Conference